

当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する
実態調査及び作業部会 報告書



宮城県精神保健福祉センター

目次

はじめに	1
第1章 調査概要	
1 目的及び実施経過	1
2 調査及び作業部会で用いた言葉の定義	2
3 調査について.....	2
4 作業部会について	4
5 区域の設定	5
第2章 調査結果	
1 量的調査.....	6
(1) 当事者及び家族会調査	6
① 団体の運営概要について	7
② 団体の活動状況について	18
③ 行政へ期待すること	26
④ ピアサポート/ピアサポーターについて	28
⑤ 今後のピアサポート活動の推進に関する意見・要望	29
(2) 支援機関調査.....	30
① 当事者及び家族団体との連携について	32
② 行政へ期待すること	47
③ ピアサポート/ピアサポーターについて	49
④ 今後のピアサポート活動の推進に関する意見・要望	50
2 質的調査.....	52
(1) 当事者・家族会調査.....	52
(2) 支援機関調査.....	54
第3章 作業部会の検討内容	
1 第1回 作業部会	58
2 第2回 作業部会	59
3 第3回 作業部会	61
第4章 考察・まとめ	
1 考察.....	63
2 まとめ	66
おわりに	69
巻末資料	
当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査実施要領	70
量的調査票一式（当事者・家族団体、市町村、事業所、精神科医療機関）	72
質的調査票一式（当事者・家族団体、市町村、事業所、精神科医療機関）	109

はじめに

現在、精神障害の有無や程度にかかわらず誰もが、安心して自分らしく暮らすことができるよう、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」（以下、「にも包括」という。）の構築が求められている。にも包括の構築にあたっては、当事者・家族の意思や選択が尊重されることや、ピアサポートの活用推進が重要とされている。

本県においては、令和4年度第1回宮城県障害者自立支援協議会精神障害部会（以下、「精神障害部会」という。）にて「本県が取り組むべき優先課題」として、①にも包括の普及、②関係機関の連携、③ピアサポートの活用が挙げられた。また、宮城県障害福祉計画（第7期障害福祉計画）においても、ピアサポートの活用について、住民の一員として活躍できる場の創出や拡大に努めることとしている。

本県は、令和6年度から、にも包括の取り組みを一層推進するため、従来の精神障害者地域移行支援事業を拡充し、当事者・家族等の活動支援・ピアサポーター活用事業を新規に開始している。その一環として、精神障害等の当事者会・家族会の実態把握や、当事者自身の経験を活かした交流活動・活躍の場の検討を行うため、精神障害部会と連動し、宮城県精神保健福祉センター（以下「センター」という。）において、県内の実態把握を行うこととなった。

第1章 調査概要

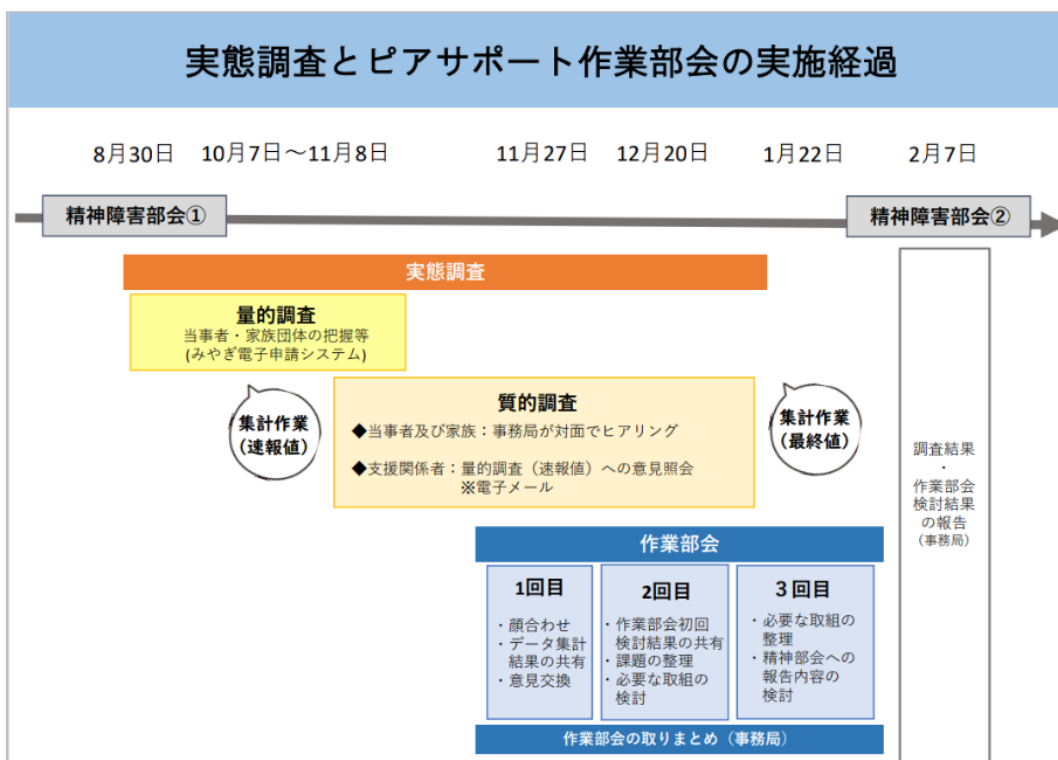
1 目的及び実施経過

当事者・家族会（以下、団体という。）の活動状況や支援機関との連携状況等を把握し、今後のピアサポート活用推進に向けた検討の基礎資料とするため、センターは、当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査（以下、「調査」という。）を令和6年10月から令和7年1月まで実施した。

なお、宮城県自立支援協議会は、調査及びピアサポート活動の推進に必要な取組を検討するため、宮城県障害者自立支援協議会専門部会設置要領（令和6年4月1日施行）第2の規定により、精神障害部会にピアサポート作業部会（以下、「作業部会」という。）を設置し、その事務局をセンターに置いた。作業部会は令和6年11月から計3回開催し、検討経過を令和6年度第2回精神障害部会（令和7年2月7日開催）へ報告した。

※実施経過については、図表1のとおり。

図表 1 調査と作業部会の実施経過



2 調査及び作業部会で用いた言葉の定義

- ・ 団体 当事者・家族会
- ・ ピア 対等・同等・仲間
- ・ ピアサポート 仲間同士の支え合い。何かしらの合同の経験、もしくは近しい困難な経験があり、その経験を活かしながら仲間としてサポートすること。ピアサポート活動は、その活動とする。
- ・ ピアサポーター 対価(雇用もしくは謝金等)を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

3 調査について

(1) 量的調査（アンケート調査）

①対象者

- ・ 本県の当事者・家族会（当センター把握している団体）54 団体
- ・ 市町村等が把握している団体
- ・ 本県の精神保健福祉医療に係る支援機関
市町村 35 か所、精神科医療機関 141 か所、障害福祉サービス事業所 951 か所

②実施方法

web サイト（みやぎ電子申請サービス）によるアンケート調査。
なお、web 回答が難しい場合は、申し出によりセンターから質問紙を送付。

③実施期間

令和6年10月7日（月）から令和6年11月8日（金）まで

④調査内容

④-1 当事者・家族会

- ・団体の基本情報、運営概要、活動内容、相談対応、他団体との連携状況等
- ・ピアサポーターの活動に関すること

④-2 支援機関

- ・ピアサポート活動を行っている団体との連携状況、連携によるプラスの効果等
- ・ピアサポーターの活動に関すること

(2) 質的調査

①対象者

- ・精神障害部会構成員 19名
(内訳 当事者・家族会2名、当事者・家族会以外17名)
- ・作業部会構成員 6名 (内、精神障害部会兼任4名)
(内訳 当事者・家族会3名 (精神障害部会兼任1名)、
当事者・家族会以外3名 (精神障害部会兼任3名))
- ・その他 1名 (量的調査で同意を得た当事者・家族会から事務局が選定)

②実施方法

- ・当事者・家族 5名
対面によるヒアリング調査。事前に電子メールで調査票を送付し、センター職員がヒアリングを行った。ヒアリングは、センター職員2名が担当した。
- ・当事者・家族以外の精神障害部会及び作業部会構成員 13名
調査票による記述調査。電子メールにて調査票を送付、回収した。

③調査期間 令和6年11月8日から令和7年1月17日まで

④調査内容

④-1 当事者・家族会

- ・ピアサポートを知ったきっかけ
- ・(当事者・家族自身が) 大変だったこと・支えになったこと・励みになったこと
- ・支え合いで感じている効果
- ・ピアサポート活動が広がるために必要だと感じること

④-2 当事者・家族会以外の精神障害部会及び作業部会構成員

量的調査（速報値）に関する意見照会

- ・実際に当事者・家族会との連携に至らない背景
- ・「情報提供・情報発信」、「交流の場・ネットワークづくり」に具体的に求めること
- ・具体的な情報収集の方法
- ・量的調査結果（速報値）に関する全体のご意見

4 作業部会について

(1) 検討事項

- ①当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査に関すること。
- ②当事者・家族の活動（ピアサポート活動）の推進に必要な取組みに関すること。
- ③前号に掲げるもののほか、センターが必要と認める事項。

(2) 組織

座長及び部会員をもって組織、部会員は、次に掲げる者のうちから、センターが依頼した。座長は、センター総括技術次長が務めた。

- ①当事者・家族 3名
- ②障害福祉サービス事業所職員 2名
- ③精神科医療機関職員 1名

部会員の構成や内訳は、当事者・家族の意見を反映する観点から、全6名のうち当事者・家族を3名とした。なお、障害福祉サービス事業所職員及び精神科医療機関職員は、精神障害部会の構成員から、所属機関を考慮し、依頼した。部会員の名簿は下記のとおりである。

部会員		構成区分
相澤 安伸	東まつしま地域生活支援センターカノン所長	障害福祉サービス事業所職員
稲塚 周子	家族	当事者・家族
二階堂 洋之	当事者	当事者・家族
西村 真希	地域支援センターばれっとよしおか主任主査	障害福祉サービス事業所職員
原田 幾世	当事者	当事者・家族
古木 京子	宮城県立精神医療センター地域医療連携室副室長	精神科医療機関職員

※五十音順・敬称略

(3) 実施期間及び開催回数

令和6年11月27日から令和7年1月22日 計3回開催した。

5 区域の設定

本調査の区域については、宮城県障害福祉計画に基づく障害福祉圏域を基本とし、次のとおり設定した。

区域	市町村名
仙南	白石市・角田市・蔵王町・七ヶ宿町・大河原町・村田町・柴田町・川崎町・丸森町
仙台	塩竈市・多賀城市・松島町・七ヶ浜町・利府町・名取市・岩沼市・亘理町・山元町・富谷市・大和町・大郷町・大衡村
大崎	大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町
栗原	栗原市
登米	登米市
石巻	石巻市・東松島市・女川町
気仙沼	気仙沼市・南三陸町
仙台市	仙台市

第2章 調査結果

1 量的調査

(1) 当事者及び家族会調査

・調査対象数及び回答数

宮城県内の当事者・家族会（当センター及び市町村等が把握している団体）を対象に調査を行い、34件から回答を得た。

なお、依頼数については、当センターが把握している団体54件の他、市町村や地域支援機関が把握している団体にも配布されている。そのため、全数が確定できず、回答率は算定していない。

図表 2 回答数

項目	件数
回答数	34
(回答内訳)	
・当事者会	16
・家族会	15
・合同	3

・所在地別の回答数

回答数は、「仙台市」に所在する当事者・家族会からの回答が最も多かった。

図表 3 所在地別の回答数

圏域	回答数
仙南	2
仙台	6
大崎	1
栗原	1
登米	0
石巻	2
気仙沼	0
仙台市	21
その他	1

① 団体の運営概要について

①-1 対象分野（複数回答）

団体が対象とする疾患分野では、「こころの病気全般」が最も多く、次いで、「認知症」、「統合失調症」であった。複数疾患を対象とした団体は、4団体であった。

対象団体別にみると、当事者会では「認知症」が多く、家族会では「こころの病気全般」・「統合失調症」が多かった。合同は、様々な疾患を対象としていた。

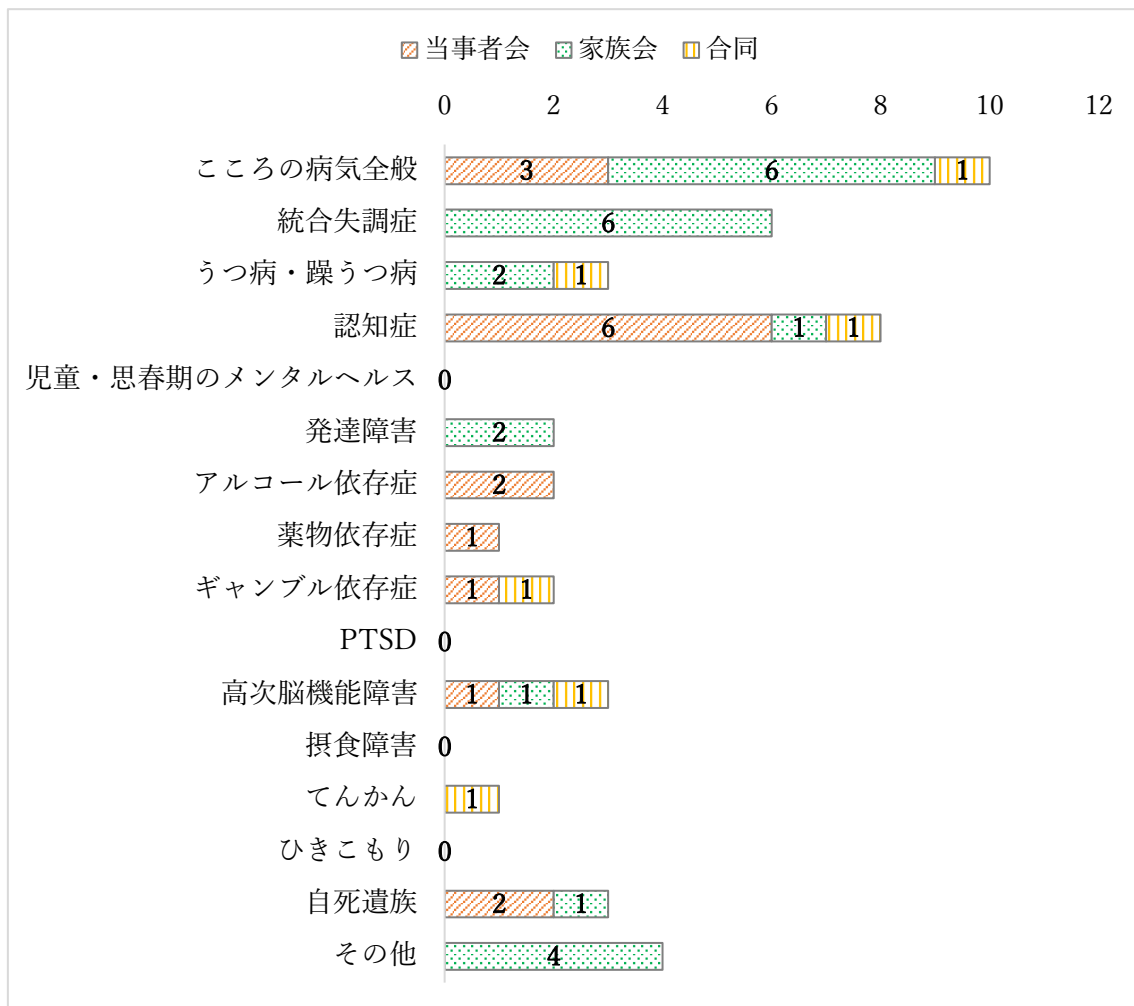
図表 4 対象分野について（対象団体別）

項目	当事者会	家族会	合同	計
こころの病気全般	3 (18.8%)	6 (40.0%)	1 (33.3%)	10 (29.4%)
統合失調症	0 (0.0%)	6 (40.0%)	0 (0.0%)	6 (17.6%)
うつ病・躁うつ病	0 (0.0%)	2 (13.3%)	1 (33.3%)	3 (8.8%)
認知症	6 (37.5%)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	8 (23.5%)
児童・思春期のメンタルヘルス	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
発達障害	0 (0.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)
アルコール依存症	2 (12.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)
薬物依存症	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)
ギャンブル依存症	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	2 (5.9%)
PTSD	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
高次脳機能障害	1 (6.3%)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	3 (8.8%)
摂食障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
てんかん	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (2.9%)
ひきこもり	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
自死遺族	2 (12.5%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	3 (8.8%)
その他	0 (0.0%)	4 (26.7%)	0 (0.0%)	4 (11.8%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会 n=16、家族会 n=15、合同 n=3、全体 n=34

図表 5 対象分野



※当事者会 n=16、家族会 n=15、合同 n=3、全体 n=34

①-2 団体の運営形態（単一回答）

団体の運営形態別にみると、「任意団体（自助グループ含む）（47.1%）」が最も多く、次いで、「その他法人（医療法人社団や一般法人社団等）（26.5%）」、「NPO 法人（14.7%）」であった。

当事者会は、「その他法人（31.3%）」が最も多く、家族会及び合同では、「任意団体（自助グループ含む）（60.0%）」が最も多かった。

図表 6 団体種別（対象団体別）

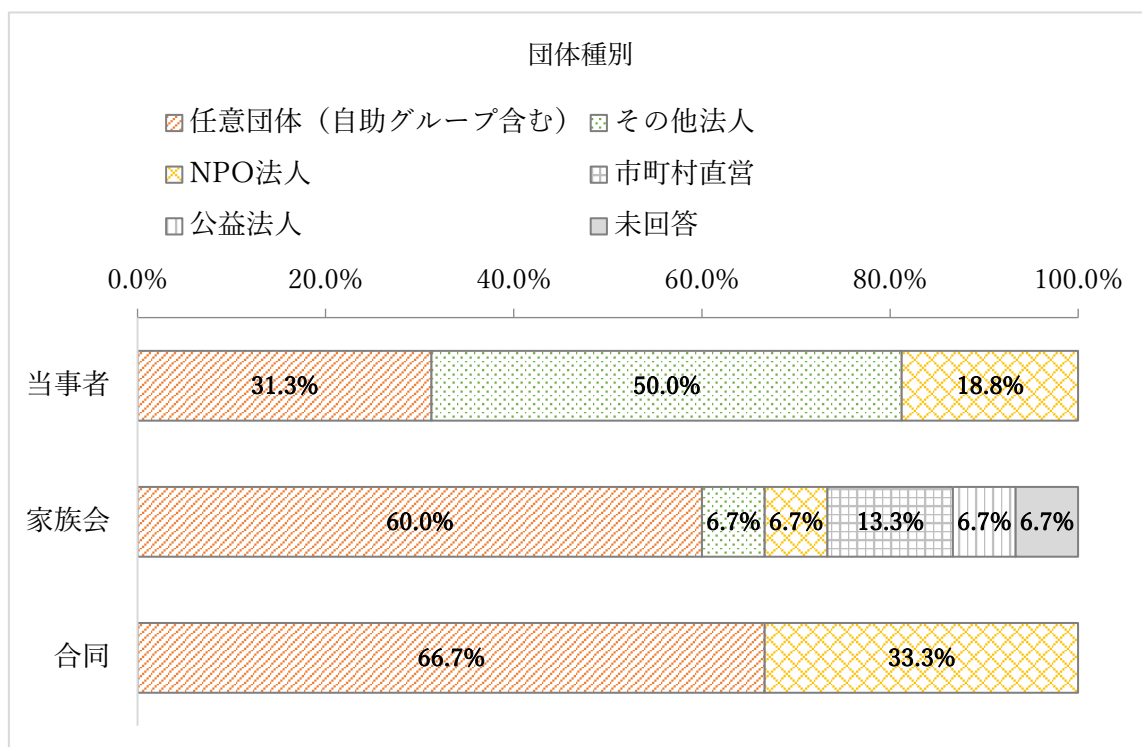
項目	任意団体	その他法人	NPO 法人	市町村直営	公益法人	未回答	計
当事者会	5 (31.3%)	8 (50.0%)	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)
家族会	9 (60.0%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	15 (100.0%)
合同	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
計	16 (47.1%)	9 (26.5%)	5 (14.7%)	2 (5.9%)	1 (2.9%)	1 (2.9%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※任意団体（自助グループ含む）

※当事者会 n=16、家族会 n=15、合同 n=3、計 n=34

図表 7



※任意団体（自助グループ含む）

※当事者会 n=16、家族会 n=15、合同 n=3、計 n=34

①-3 会員数（令和6年10月1日時点）（単一回答）

会員数について、全体として、当事者・家族会いずれも「10～19名」が最も多かった。また、任意団体よりも法人格を持つ団体の方が、会員数が多かった。

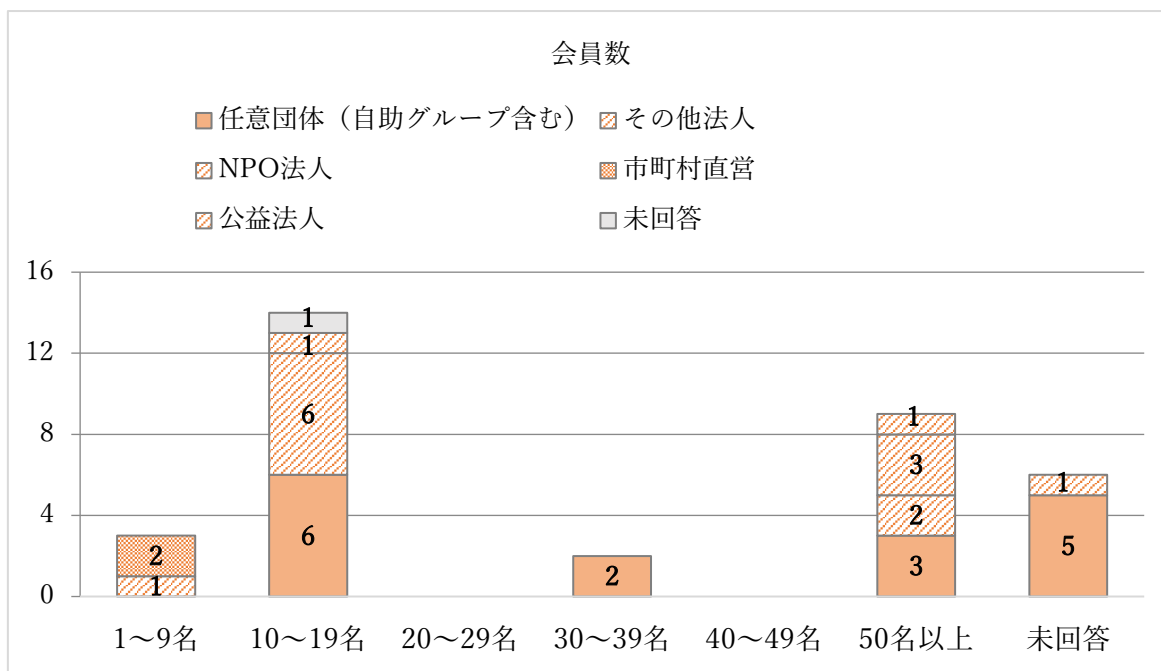
図表 8 会員数（団体種別）

項目	1～9名	10～19名	20～29名	30～39名	40～49名	50名以上	未回答	計
任意団体	0 (0.0%)	6 (37.5%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (18.8%)	5 (31.3%)	16 (100.0%)
その他 法人	1 (11.1%)	6 (66.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (22.2%)	0 (0.0%)	9 (100.0%)
NPO法人	0 (0.0%)	1 (20.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (60.0%)	1 (20.0%)	5 (100.0%)
市町村 直営	2 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
公益法人	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
未回答	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)
計	3	14	0	2	0	9	6	34

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※任意団体（自助グループ含む）

図表 9



※会員数（n=34）

①-4 会員の主年齢層（主な年齢層を2つまで選択）（複数回答）

会員の主年齢層では、「60～69歳」が最も多く、次いで、「50～59歳」と「70～79歳」が同数であった。

対象団体別にみると、当事者会では「60～69歳」が最も多く、次いで「50～59歳」であった。家族会では「60～69歳」が最も多く、次いで「70～79歳」だった。合同では「40～49歳」「60～69歳」が同数で最も多かった。

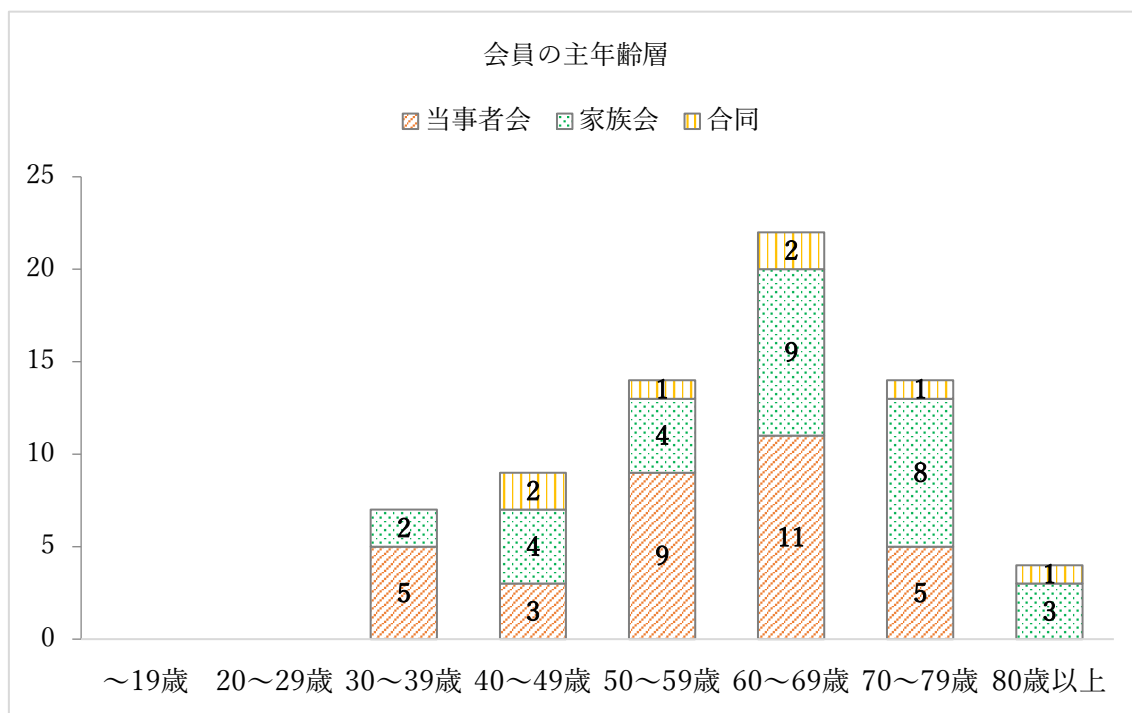
図表 10 会員の主年齢層（対象団体別）

項目	～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
当事者会	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (31.3%)	3 (18.8%)	9 (56.3%)	11 (68.8%)	5 (31.3%)	0 (0.0%)
家族会	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (13.3%)	4 (26.7%)	4 (26.7%)	9 (60.0%)	8 (53.3%)	3 (20.0%)
合同	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)
全体	0 (0.0%)	0 (0.0%)	7 (20.6%)	9 (26.5%)	14 (41.2%)	22 (64.7%)	14 (41.2%)	4 (11.8%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 11



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

①-5 設立年数（自由記載）

【対象団体について】

設立年数では、「10～19年」が最も多かった。

家族会は「30年以上」活動している団体が4割を占め、当事者会は「29年以下」の団体が6割弱を占めている。

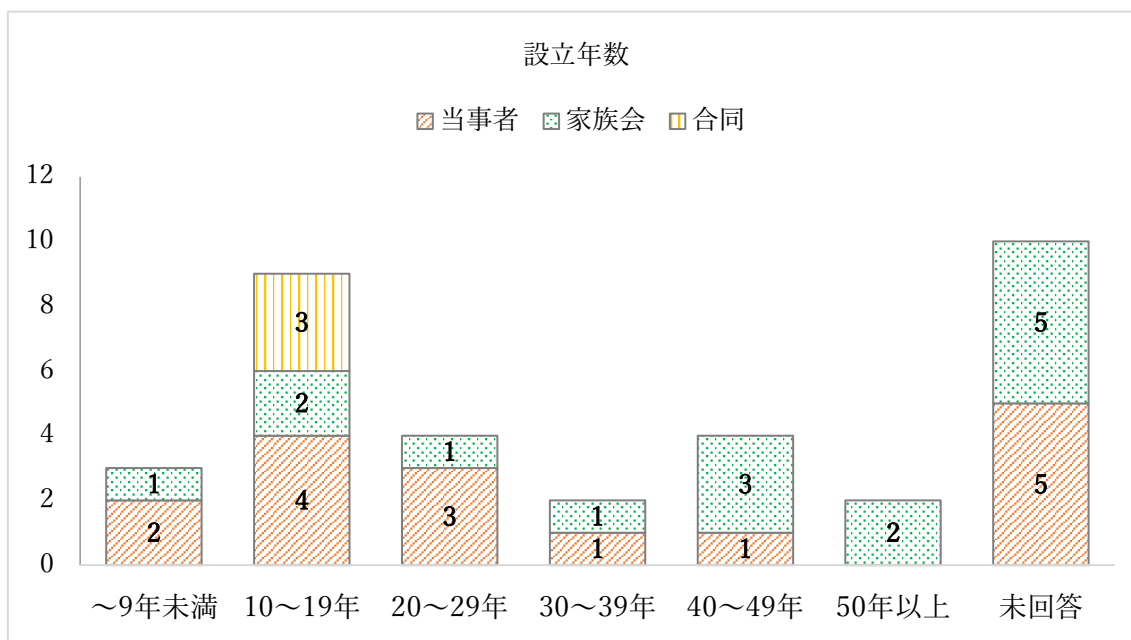
図表 12 設立年数（対象団体別）

項目	1～9年	10～19年	20～29年	30～39年	40～49年	50年以上	未回答
当事者会	2 (12.5%)	4 (25.0%)	3 (18.8%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	5 (31.3%)
家族会	1 (6.7%)	2 (13.3%)	1 (6.7%)	1 (6.7%)	3 (20.0%)	2 (13.3%)	5 (33.3%)
合同	0 (0.0%)	3 (100%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
全体	3 (8.8%)	9 (26.5%)	4 (11.8%)	2 (5.9%)	4 (11.8%)	2 (5.9%)	10 (29.4%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 13



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

①-6 会費の有無（単一回答）

会費を徴収しているかどうかでは、全体のほぼ半数が「会費あり」だった。

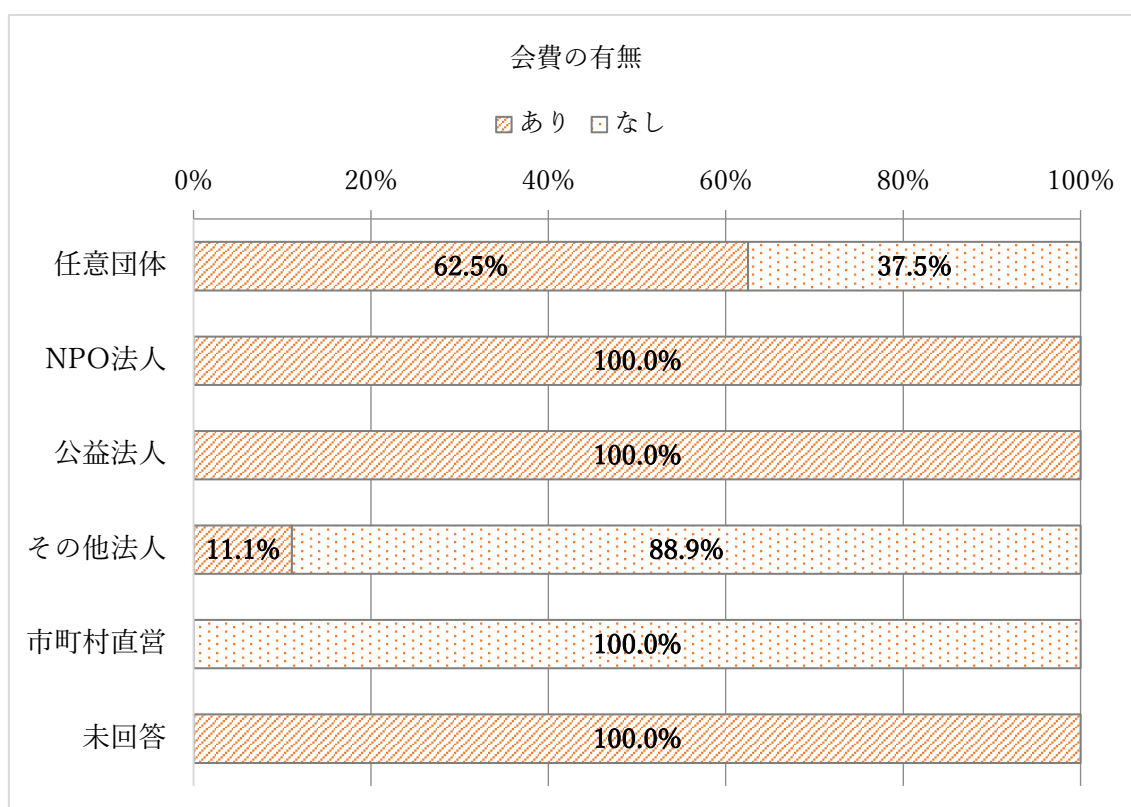
団体種別に見ると、任意団体やNPO法人では会費を徴収しているが、その他法人（医療法人社団や一般法人社団等）では会費なしで運営しているところが多く、市町村直営では会費なしだった。

図表 14 会費の有無（団体種別）

項目	任意団体	NPO法人	公益法人	その他法人	市町村直営	未回答	計
会費あり	10 (62.5%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	1 (11.1%)	0 (0.0%)	1 (100.0%)	18 (52.9%)
会費なし	6 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	8 (88.9%)	2 (100.0%)	0 (0.0%)	16 (47.1%)
計	16 (100.0%)	5 (100.0%)	1 (100.0%)	2 (100.0%)	9 (100.0%)	1 (100.0%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

図表 15



※会費あり（n=18）、会費なし（n=16）、全体（n=34）

①-7 主な活動の財源（複数回答）

主な活動の財源は、全体として、「補助金や助成金」、「会費の収入」が半数となった。当事者会は「補助金や助成金」、家族会と合同団体は、「会費の収入」の活用が多い。

【対象団体別】

図表 16 主な活動の財源（対象団体別）

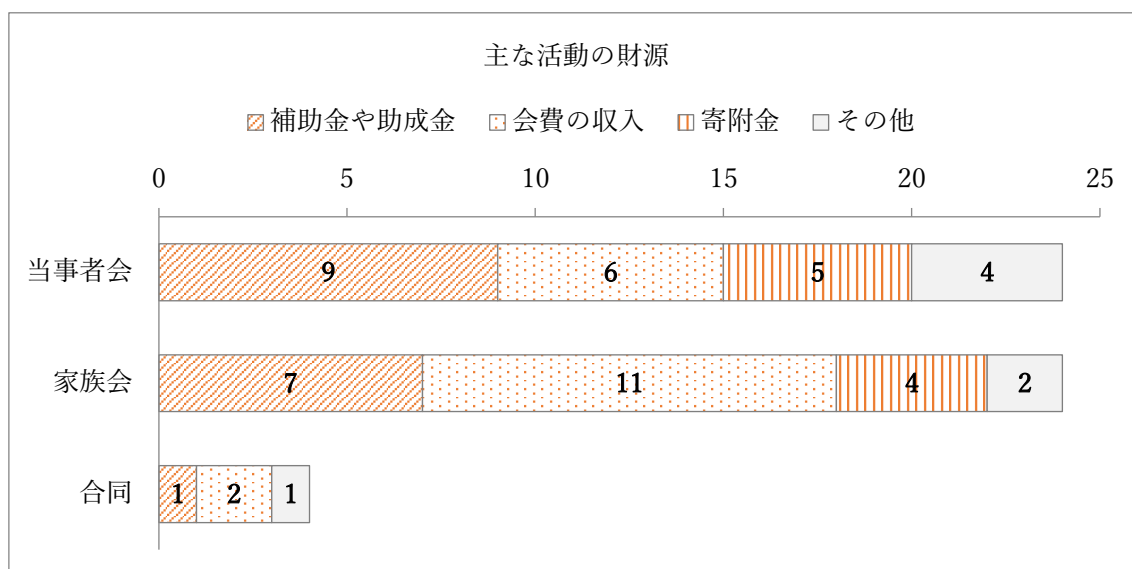
項目	補助金や助成金	会費の収入	寄附金	その他
当事者会	9 (56.3%)	6 (37.5%)	5 (31.3%)	4 (25.0%)
家族会	7 (46.7%)	11 (73.3%)	4 (26.7%)	2 (13.3%)
合同	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)
全体	17 (50.0%)	19 (55.9%)	9 (26.5%)	7 (20.6%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

※その他：行政・法人収入、参加者による献金

図表 17 対象団体別



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

【団体種別】

主な財源として、任意団体と NPO 団体は、「補助金・助成金等」及び「会費収入」が多く、市町村直営は、「その他（市町村予算）」のみであった。また、その他法人（医療法人社団や一般法人社団等）は「補助金・助成金等」が多いが、「その他（法人予算）」の回答もあった。

図表 18 主な活動の財源（団体種別）

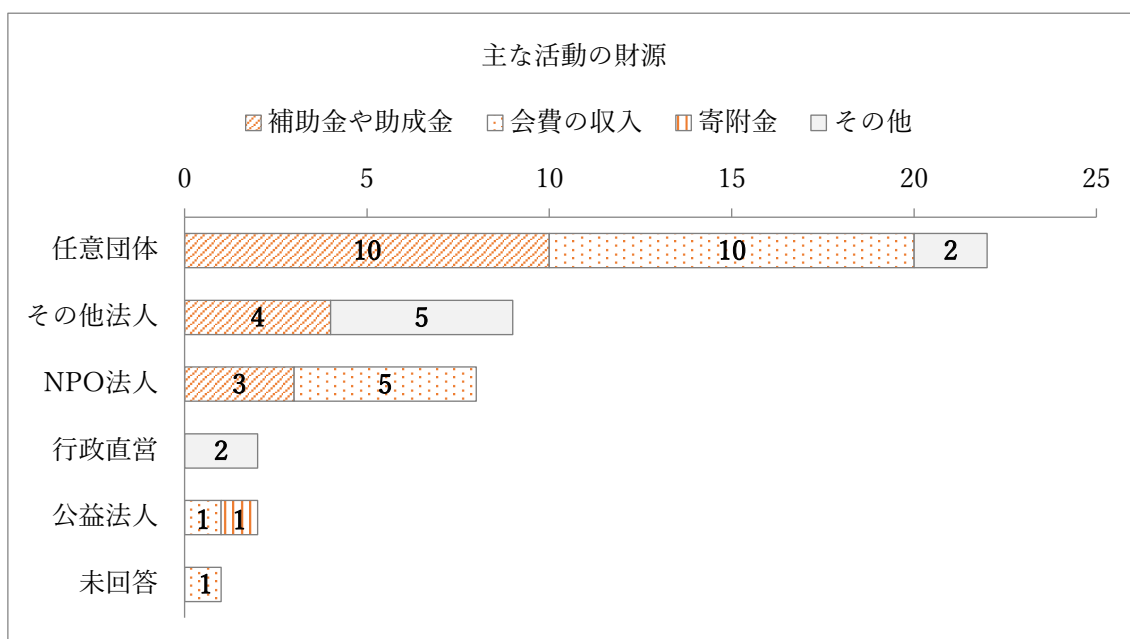
項目	補助金や助成金	会費の収入	寄附金	その他
任意団体	10 (62.5%)	10 (62.5%)	0 (0.0%)	2 (12.5%)
その他法人	4 (44.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	5 (55.6%)
NPO 法人	3 (60.0%)	5 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
市町村直営	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (100.0%)
公益法人	0 (0.0%)	1 (100.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)
未回答	0 (0.0%)	1 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※任意団体（n=16）、その他法人（n=9）、NPO 法人（n=5）、市町村直営（n=2）、公益法人（n=1）、未回答（n=1）

※その他：行政・法人収入、参加者による献金

図表 19 団体種別



※任意団体（n=16）、その他法人（n=9）、NPO 法人（n=5）、市町村直営（n=2）、公益法人（n=1）、未回答（n=1）

①-8 団体の周知方法（複数回答）

団体の周知方法では、「各関係機関へチラシ設置や配布依頼」が34団体中21団体で最も多く、次いで、「市町村広報の活用」、「口コミ」となった。一方、「団体のホームページ掲載」は12団体で、「SNSの活用」は8団体であった。当事者会は、「各関係機関へチラシ設置や配布依頼」が最も多く、家族会は「市町村広報の活用」が最も多かった。

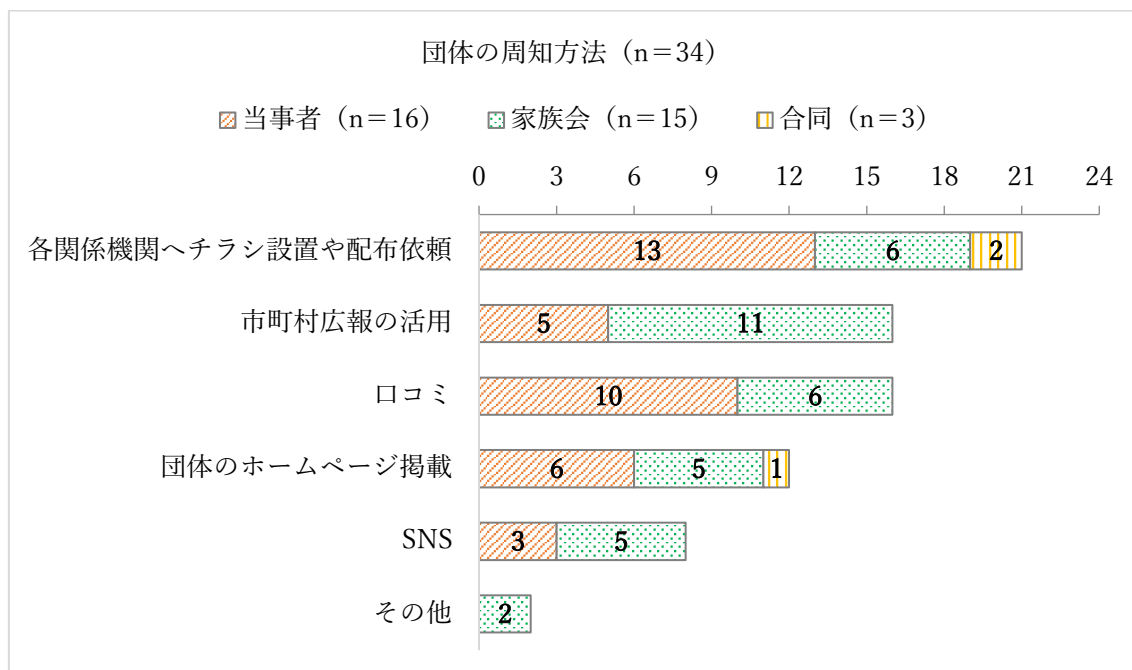
図表 20 団体の周知方法（対象団体別）

項目	当事者会	家族会	合同	全体
各関係機関へチラシ設置や配布依頼	13 (81.3%)	6 (40.0%)	2 (66.7%)	21 (61.8%)
市町村広報の活用	5 (31.3%)	11 (73.3%)	0 (0.0%)	16 (47.1%)
口コミ	10 (62.5%)	6 (40.0%)	0 (0.0%)	16 (47.1%)
団体のホームページ掲載	6 (37.5%)	5 (33.3%)	1 (33.3%)	12 (35.3%)
SNS	3 (18.8%)	5 (33.3%)	0 (0.0%)	8 (23.5%)
その他	0 (0.0%)	2 (13.3%)	0 (0.0%)	2 (5.9%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 21



①-9 運営の課題（複数回答）

運営の課題では、全体として「新規会員の確保」が最も多く、次いで、「周知活動」、「後継者育成」となった。

対象団体別にみると、家族会は「新規会員の確保」の課題が多く、当事者会は、「周知活動」の課題が多かった。

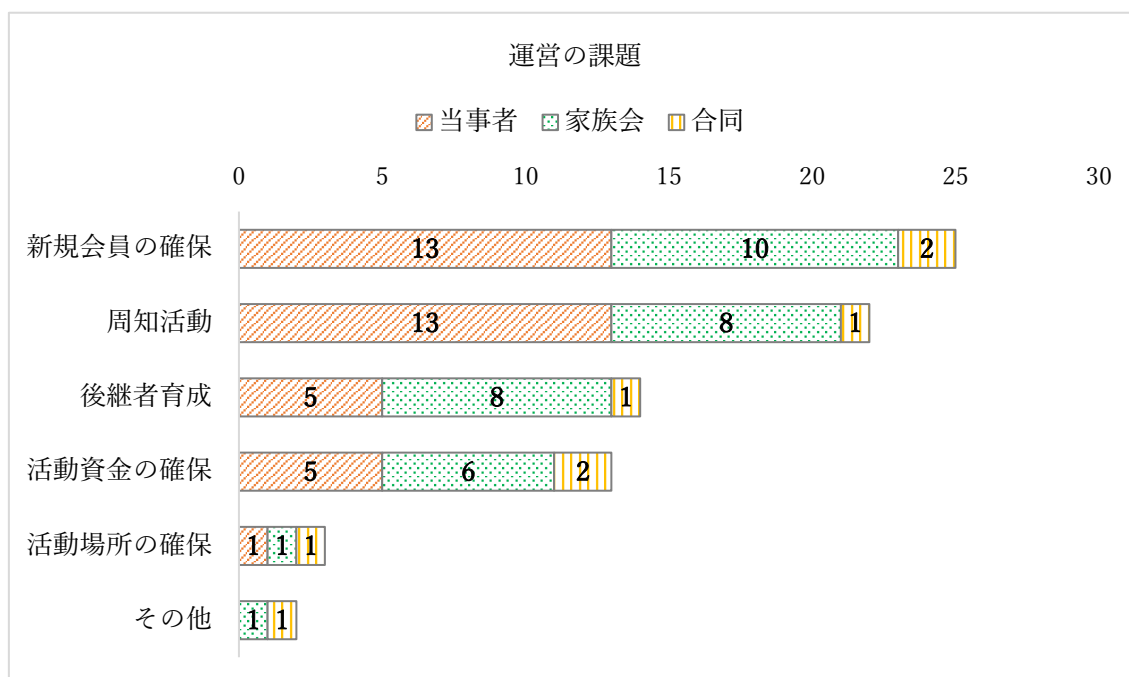
図表 22 運営の課題（対象団体別）

項目	当事者会	家族会	合同	全体
新規会員の確保	13 (81.3%)	10 (66.7%)	2 (66.7%)	25 (73.5%)
周知活動	13 (81.3%)	8 (53.3%)	1 (33.3%)	22 (64.7%)
後継者育成	5 (31.3%)	8 (53.3%)	1 (33.3%)	14 (41.2%)
活動資金の確保	5 (31.3%)	6 (40.0%)	2 (66.7%)	13 (38.2%)
活動場所の確保	1 (6.3%)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	3 (8.8%)
その他	0 (0.0%)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	2 (5.9%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 23



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

② 団体の活動状況について

②-1 活動日（単一回答）

団体の活動日について、定例開催している団体は8割であった。

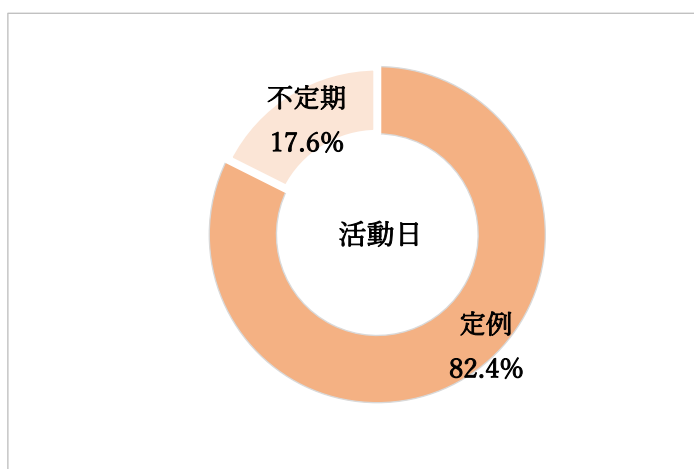
図表 24 活動日（対象団体別）

項目	定例	不定期	計
当事者会	15 (93.8%)	1 (6.3%)	16 (100.0%)
家族会	10 (66.7%)	5 (33.3%)	15 (100.0%)
合同	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	28 (82.4%)	6 (17.6%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 25



※全体（n=34）

②-2 「定例」と回答した団体の開催頻度（自由記載）

【対象団体について】

定例開催の団体（28 団体）について、「月 1～2 回」程度の開催が最も多かった。

当事者会は、週・月単位の実施が多く、家族会は、「月 1～2 回」と「3～4 ヶ月に 1 回」が同数であった。

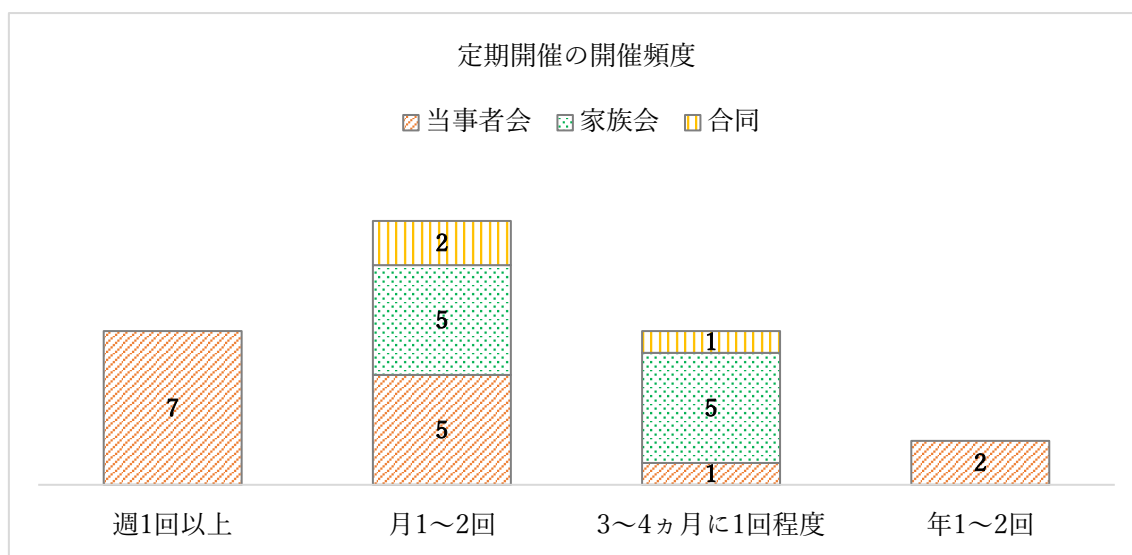
図表 26 「定例」と回答した団体の開催頻度（対象団体別）

項目	週 1 回以上	月 1～2 回	3～4 ヶ月に 1 回	年 1～2 回	計
当事者会	7 (46.7%)	5 (33.3%)	1 (6.7%)	2 (13.3%)	15 (100.0%)
家族会	0 (0.0%)	5 (50.0%)	5 (50.0%)	0 (0.0%)	10 (100.0%)
合同	0 (0.0%)	2 (66.7%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	7 (25.0%)	12 (42.9%)	7 (25.0%)	2 (7.1%)	28 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=15）、家族会（n=10）、合同（n=3）、全体（n=28）

図表 27



※当事者会（n=15）、家族会（n=10）、合同（n=3）、全体（n=28）

②-3 主な活動場所（複数回答）

定例開催の団体（28 団体）について、主な活動場所は、「公共施設」が多かった。また、当事者会は、医療機関内が 3 割だった。

図表 28 主な活動場所（対象団体別）

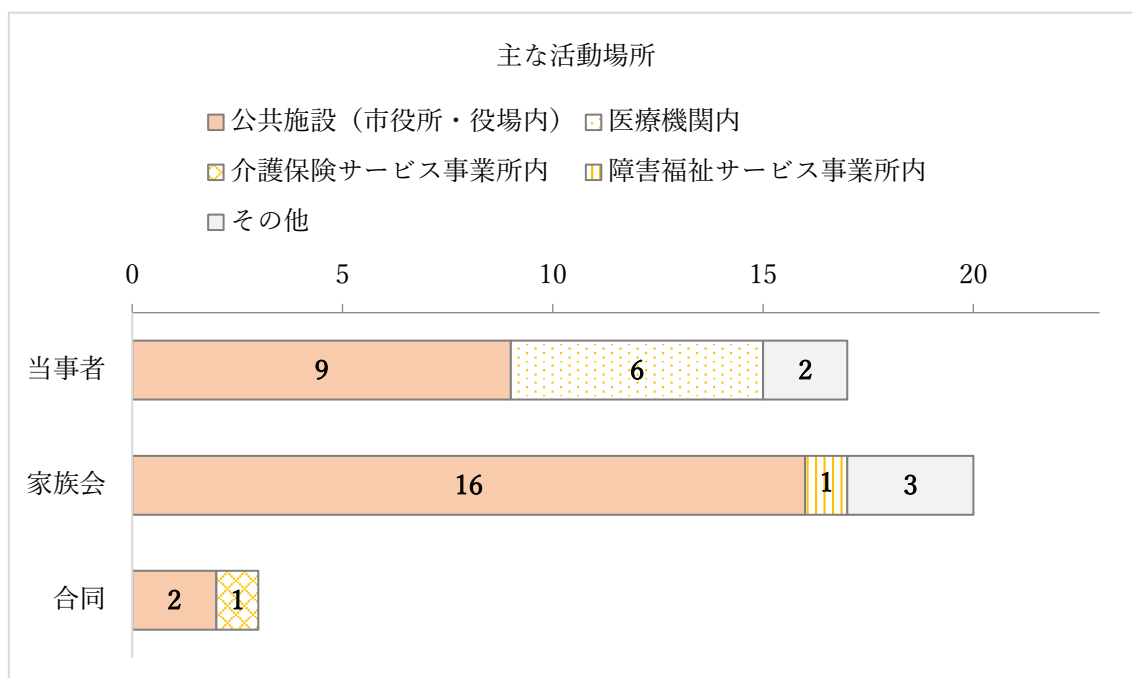
項目	当事者会	家族会	合同	全体
公共施設	9 (56.3%)	16 (106.7%)	2 (66.7%)	27 (79.4%)
医療機関内	6 (37.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	6 (17.6%)
介護保険サービス事業所内	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (2.9%)
障害福祉サービス事業所内	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)
その他	2 (12.5%)	3 (20.0%)	0 (0.0%)	5 (14.7%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

※その他：法人所持施設内または運営母体施設内

図表 29



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

②-4 活動内容（複数回答）

活動内容は、「ミーティングの開催（当事者同士の語り合い等）」が最も多く、次いで、「相談対応」、「メンバー同士での勉強会等」となった。他にも、広報活動やイベントの実施等、幅広く活動されていた。

対象団体にみると、どの団体でも「ミーティングの開催（当事者同士の語り合い等）」が多く、次いで、家族会では、「メンバー同士での勉強会等」、合同では、「相談対応」であった。

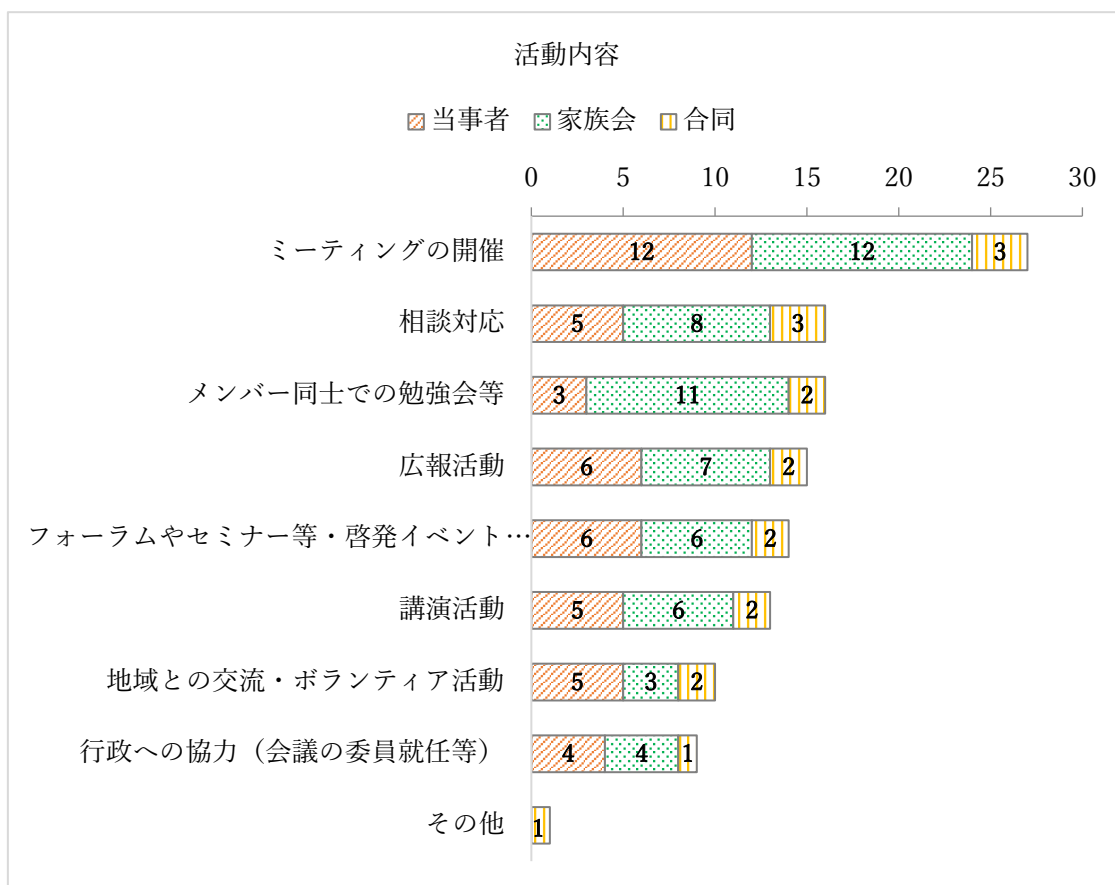
図表 30 活動内容（対象団体別）

項目	当事者会	家族会	合同	全体
ミーティングの開催（当事者同士の語り合い等）	12 (75.0%)	12 (80.0%)	3 (100.0%)	27 (79.4%)
相談対応	5 (31.3%)	8 (53.3%)	3 (100.0%)	16 (47.1%)
メンバー同士での勉強会等	3 (18.8%)	11 (73.3%)	2 (66.7%)	16 (47.1%)
広報活動（チラシや広報・通信発行等）	6 (37.5%)	7 (46.7%)	2 (66.7%)	15 (44.1%)
フォーラムやセミナー等・啓発イベントの実施	6 (37.5%)	6 (40.0%)	2 (66.7%)	14 (41.2%)
講演活動（研修会でのリカバリー体験談の発表等）	5 (31.3%)	6 (40.0%)	2 (66.7%)	13 (38.2%)
地域との交流・ボランティア活動	5 (31.3%)	3 (20.0%)	2 (66.7%)	10 (29.4%)
行政への協力（会議の委員就任等）	4 (25.0%)	4 (26.7%)	1 (33.3%)	9 (26.5%)
その他	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (2.9%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 31



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

②-5 相談への対応（複数回答）

個別相談を受けている団体は、8割であった。

個別の相談対応では、「電話」が最も多く、次いで、「対面（訪問・面談）」であった。

「メール」については、家族会よりも当事者会の割合が多かった。

図表 32 相談への対応（対象団体別）

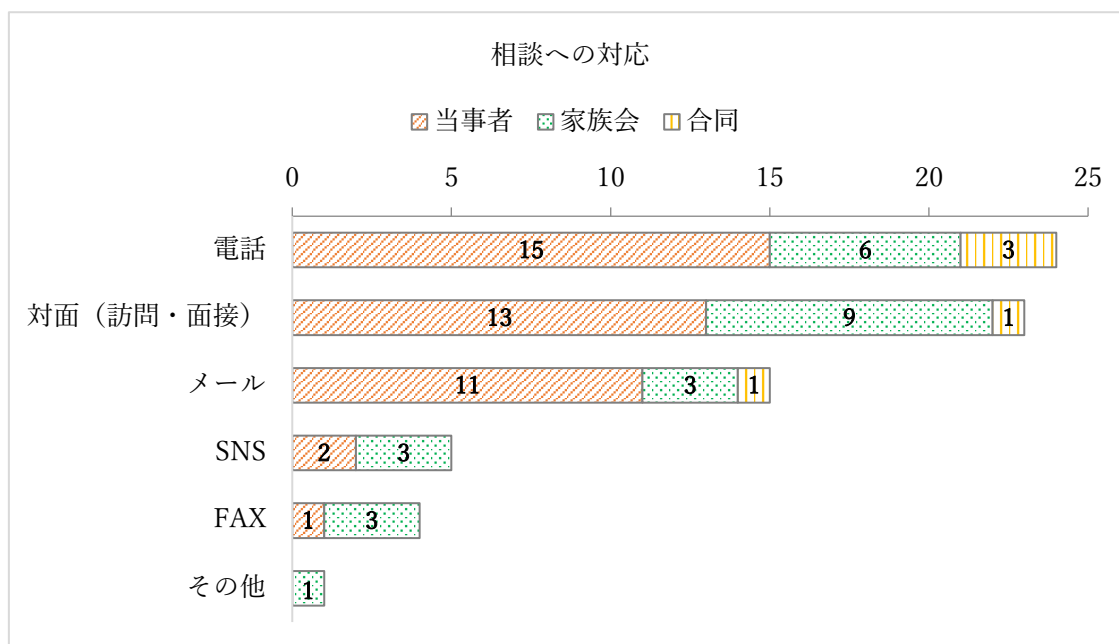
項目	電話	対面	メール	SNS	FAX	その他	個別相談は 受けていない
当事者会	15 (93.8%)	13 (81.3%)	11 (68.8%)	2 (12.5%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	1 (6.3%)
家族会	6 (40.0%)	9 (60.0%)	3 (20.0%)	3 (20.0%)	3 (20.0%)	1 (6.7%)	5 (33.3%)
合同	3 (100.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	24 (70.6%)	23 (67.6%)	15 (44.1%)	5 (14.7%)	4 (11.8%)	1 (2.9%)	6 (17.6%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※対面（訪問・面接）

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 33



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

②-6 他団体との交流や連携の有無（単一回答）

他団体との交流や連携の有無では、全体の6割が「連携あり」の回答であったが、当事者会では「連携なし」が半数を超えていた。

他団体との連携先としては、「県内の患者家族会」「県内の患者家族の連合会」「全国の患者家族の連合会」「全国規模の研究団体」「学会」等があり、内容としては「個別相談」「交流会」「告知の協力」「シンポジウム等の開催」「ガイドラインの作成協力」等多岐に渡っていた。

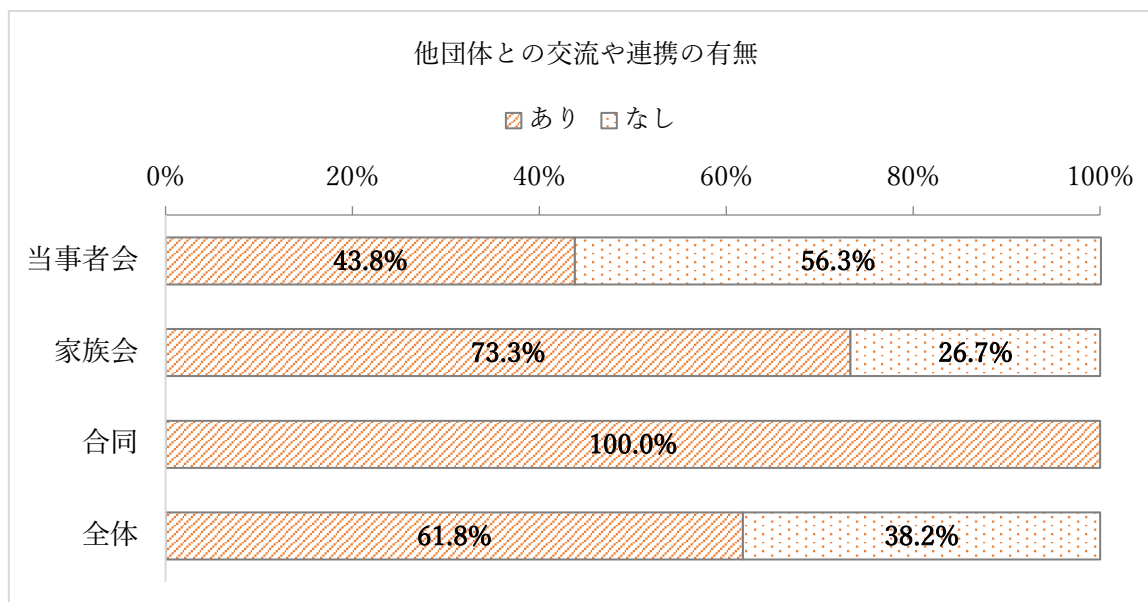
図表 34 他団体との交流や連携の有無（対象団体別）

項目	あり	なし	計
当事者会	7 (43.8%)	9 (56.3%)	16 (100.0%)
家族会	11 (73.3%)	4 (26.7%)	15 (100.0%)
合同	3 (100.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	21 (61.8%)	13 (38.2%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 35



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

②-7 困ったときの相談先（単一回答）

団体が困ったときの相談先では、「相談先あり」が全体の8割であった。

具体的な相談先としては、「精神科医」や「医療機関」、「市町村（地域包括支援センター含む）」、「県内の他の団体」、「全国の患者家族連合会」、「相談支援事業所」、「県・保健福祉事務所・支所」等となっていた。

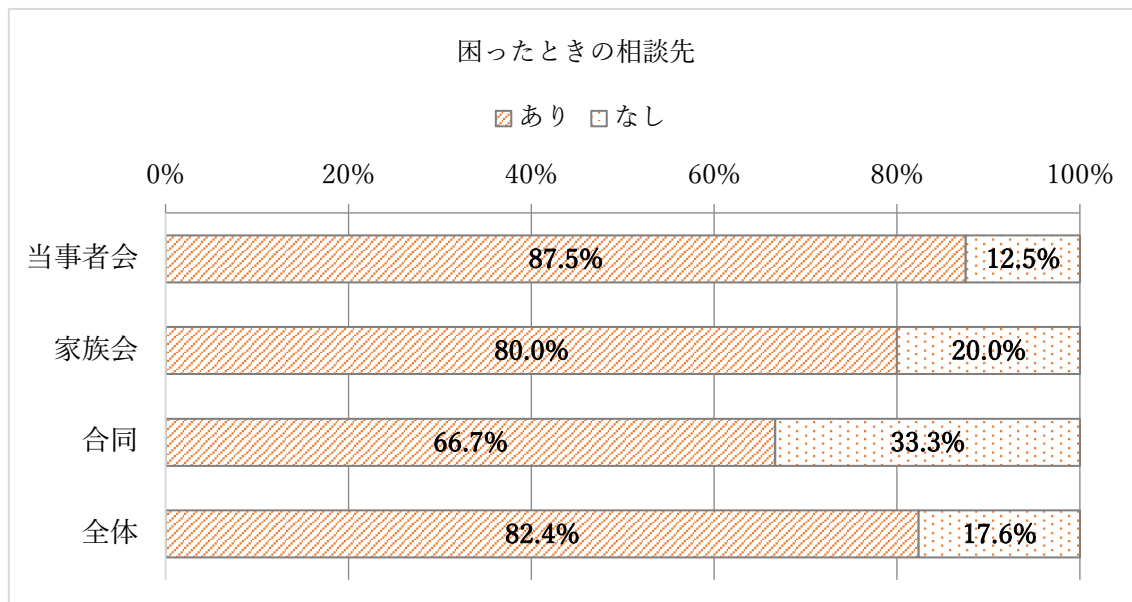
図表 36 困ったときの相談先（対象団体別）

項目	あり	なし	計
当事者会	14 (87.5%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
家族会	12 (80.0%)	3 (20.0%)	15 (100.0%)
合同	2 (66.7%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)
全体	28 (82.4%)	6 (17.6%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 37



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

③ 行政へ期待すること（複数回答）

行政へ期待することでは、「当事者・家族会活動に関する情報提供」が最も多く、次いで、「地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信」、「当事者・家族会同士の交流（活動共有）の場・ネットワークづくり」となった。

当事者会では「地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信」が最も多く、家族会・合同では、「当事者・家族会同士の交流の場・ネットワークづくり」が最も多かった。

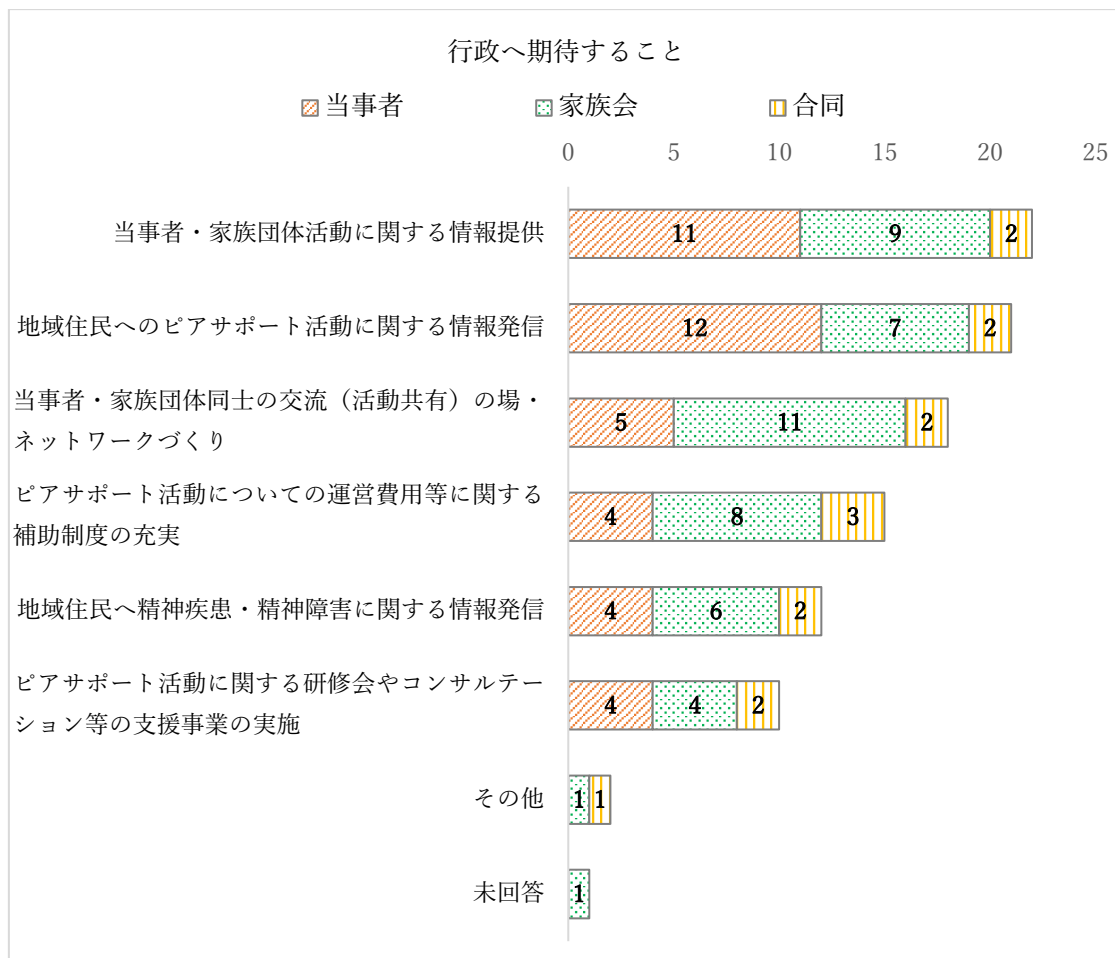
図表 38 行政へ期待すること（対象団体別）

項目	当事者会	家族会	合同	全体
当事者・家族会活動に関する情報提供	11 (68.8%)	9 (60.0%)	2 (66.7%)	22 (64.7%)
地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信	12 (75.0%)	7 (46.7%)	2 (66.7%)	21 (61.8%)
当事者・家族会同士の交流（活動共有）の場 ネットワークづくり	5 (31.3%)	11 (73.3%)	2 (66.7%)	18 (52.9%)
ピアサポート活動についての 運営費用等に関する補助制度の充実	4 (25.0%)	8 (53.3%)	3 (100.0%)	15 (44.1%)
地域住民へ精神疾患・精神障害に関する 情報発信	4 (25.0%)	6 (40.0%)	2 (66.7%)	12 (35.3%)
ピアサポート活動に関する研修会や コンサルテーション等支援事業の実施	4 (25.0%)	4 (26.7%)	2 (66.7%)	10 (29.4%)
その他	0 (0.0%)	1 (6.7%)	1 (33.3%)	2 (5.9%)
未回答	0 (0.0%)	1 (6.7%)	0 (0.0%)	1 (2.9%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 39



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

④ ピアサポート/ピアサポーターについて

④-1 ピアサポーターの用語の認知（単一回答）

ピアサポーターの用語を知っている団体は、全体の7割であり、「知っていた」の回答は、当事者会8割に対し、家族会は5割であった。

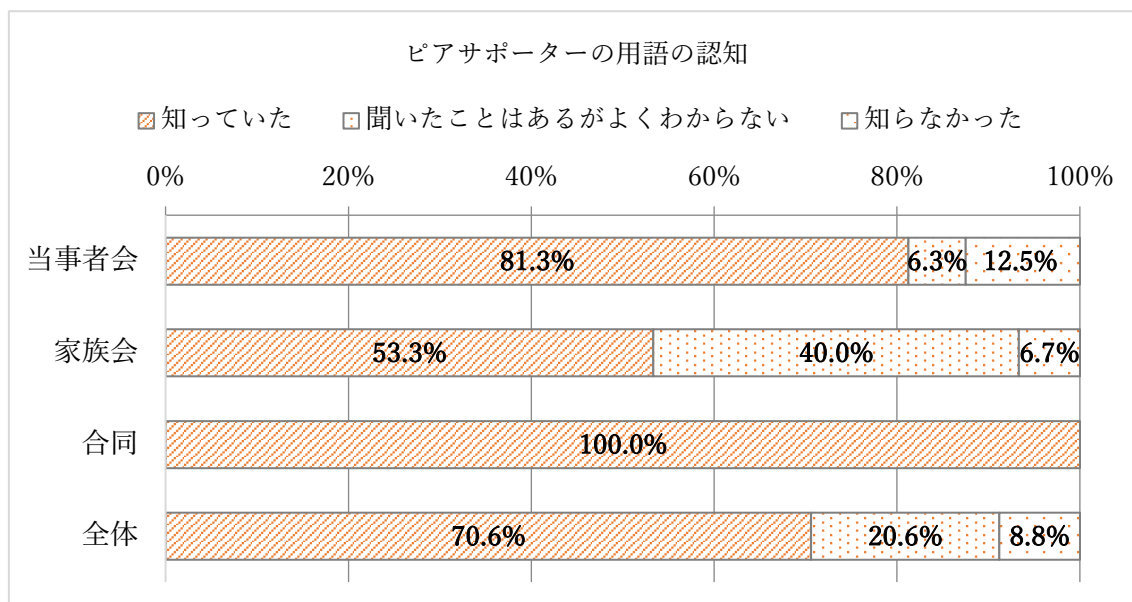
図表 40 ピアサポーターの用語の認知（対象団体別）

項目	知っていた	聞いたことはあるが よくわからない	知らなかった	計
当事者会	13 (81.3%)	1 (6.3%)	2 (12.5%)	16 (100.0%)
家族会	8 (53.3%)	6 (40.0%)	1 (6.7%)	15 (100.0%)
合同	3 (100.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	24 (70.6%)	7 (20.6%)	3 (8.8%)	34 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

図表 41



※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

④-2. ピアサポーターが所属している団体（単一回答）

ピアサポーターが所属している団体は、全体の2割であった。

「いる」の回答には、当事者会が5団体、家族会が2団体、合同が1団体であった。

図表 42 ピアサポーターが所属している団体

	いる	いない	未回答	計
当事者会	5 (31.3%)	11 (68.8%)	0 (0.0%)	16 (100.0%)
家族会	2 (13.3%)	12 (80.0%)	1 (6.7%)	15 (100.0%)
合同	1 (33.3%)	2 (66.7%)	0 (0.0%)	3 (100.0%)
全体	8 (23.5%)	25 (73.5%)	1 (2.9%)	34 (100%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※当事者会（n=16）、家族会（n=15）、合同（n=3）、全体（n=34）

④-3 ピアサポーターの人数（令和6年10月1日時点）

「いる」と回答した8団体のうち、当事者会が最も多い5団体で、人数は1～6人であった。次いで、家族会が2団体で、人数はそれぞれ約20人、1人だった。合同は1団体で、20人以上だった。

また、対象となる対象疾患別では、高次脳機能障害、アルコール依存症、薬物依存症、認知症、発達障害、うつ病・躁うつ病の団体から所属していると回答あった。

⑤ 今後のピアサポート活動の推進に関する意見・要望

意見・要望としていただいた内容を3点にまとめた。

1つ目は、ピアサポートの活動の場に行政等関係者に足を運んでほしいことや、長期入院者の退院支援だけでなく、予防やリカバリーのためにも行政と当事者が手を組めるとよいという理由からピアサポート活動を行政等に知って欲しい、幅広く活動できるようにしてほしいというものであった。

2つ目は、患者・家族会の活動の情報発信と活動への援助とともに、ピアサポート活動そのものの周知を図ってほしいというものであった。

3つ目は、ピアサポート活動は、他県をみれば20年前から取り組まれているものであり、宮城県の取組は、遅れの指摘とするものであった。

1 量的調査

(2) 支援機関調査

・調査対象と回収数

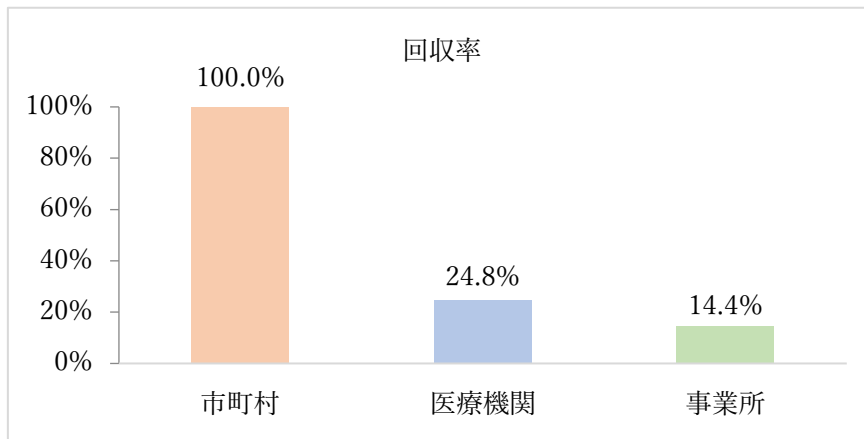
支援機関向けでは、宮城県内の市町村・精神科医療機関（以下、「医療機関」という。）・障害福祉サービス事業所（以下、「事業所」という。）を対象に調査を行い、全体として 207 件から回答を得た。回収率は 18%であった。

図表 43 調査対象と回収数

項目	依頼数	回収数
市町村	35	35 (100.0%)
医療機関	141	35 (24.8%)
事業所	951	137 (14.4%)
全体	1,127	207 (18.4%)

※回収数（上段：件数、下段：割合＝回答数/n）

図表 44



・医療機関の回答内訳

医療機関の回答のうち、精神科病院は約 3 割、精神科クリニックは約 7 割であった。

図表 45 医療機関の回答数

種別	回収数
精神科病院	12 (34.3%)
精神科クリニック	23 (65.7%)
計	35 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

・障害福祉サービス事業所の回答内訳（複数回答）

事業所の種別では、「就労継続支援 B 型」の回答が最も多く、次いで、「生活介護」、「共同生活介護」となった。「その他」には、施設入所支援・就労定着支援・居宅介護・短期入所が含まれている。

図表 46 障害福祉サービス事業所の回答内訳

項目	件数	割合
居宅介護	1	0.7%
重度訪問介護	0	0.0%
同行援護	0	0.0%
行動援護	0	0.0%
重度障害者等包括支援	0	0.0%
短期入所	1	0.7%
療養介護	0	0.0%
生活介護	26	19.0%
施設入所支援	1	0.7%
自立訓練（機能訓練・生活訓練）	5	3.6%
宿泊型自立訓練	4	2.9%
就労移行支援	11	8.0%
就労継続支援A型	10	7.3%
就労継続支援B型	56	40.9%
就労定着支援	6	4.4%
自立生活援助	0	0.0%
共同生活援助	25	18.2%
基幹相談支援センター	5	3.6%
計画相談支援	23	16.8%
相談支援事業	13	9.5%
地域移行	3	2.2%
地域定着	3	2.2%
地域活動支援センター	7	5.1%
障害者就業・生活支援センター	3	2.2%

① 当事者及び家族団体との連携について

①-1 過去3年以内の連携の有無（単一回答）

当事者・家族団体と過去3年以内に「連携している（したことがある）」と回答した支援機関は、全体の2割だった。市町村は5割弱、医療機関は1割弱、事業所は2割弱だった。

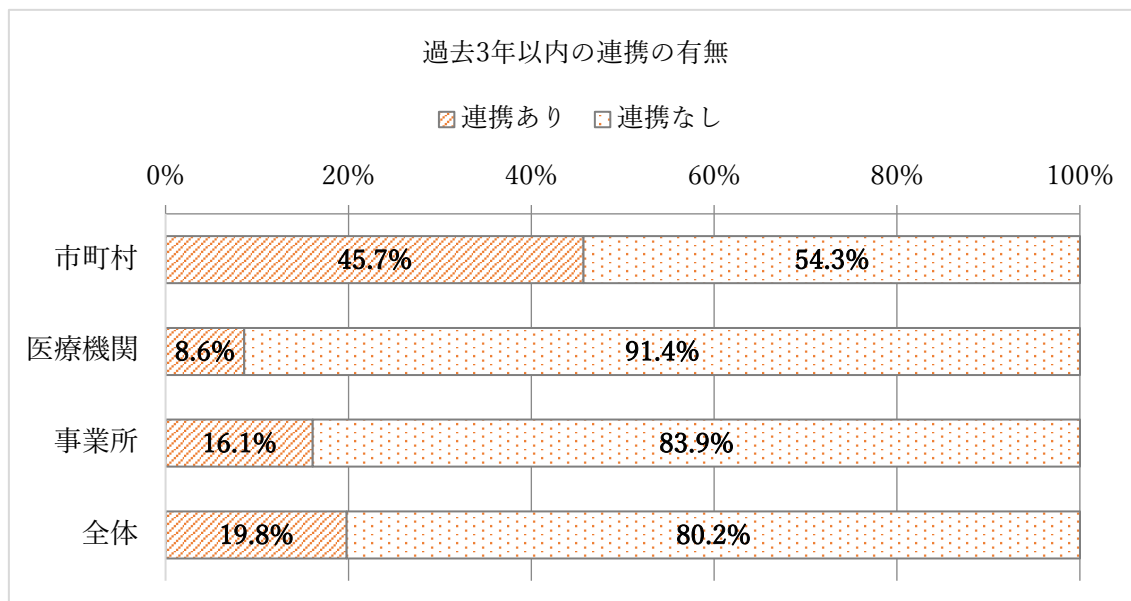
図表 47 過去3年以内の連携の有無（支援機関別）

	市町村	医療機関	事業所	全体
連携あり	16 (45.7%)	3 (8.6%)	22 (16.1%)	41 (19.8%)
連携なし	19 (54.3%)	32 (91.4%)	115 (83.9%)	166 (80.2%)
計	35 (100.0%)	35 (100.0%)	137 (100.0%)	207 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

図表 48



※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

①-2 連携している団体数（単一記載）

※①-1で「連携あり」と回答した支援機関のみ（16市町村、3医療機関、22事業所）

当事者・家族団体と過去3年以内に「連携している（したことがある）」と回答した支援機関のうち、「1団体」と連携している支援機関が7割、「3団体以上」と連携している支援機関は1割だった。また、支援機関別にみると、市町村と事業所においては、2団体以上の連携が一定数みられた。

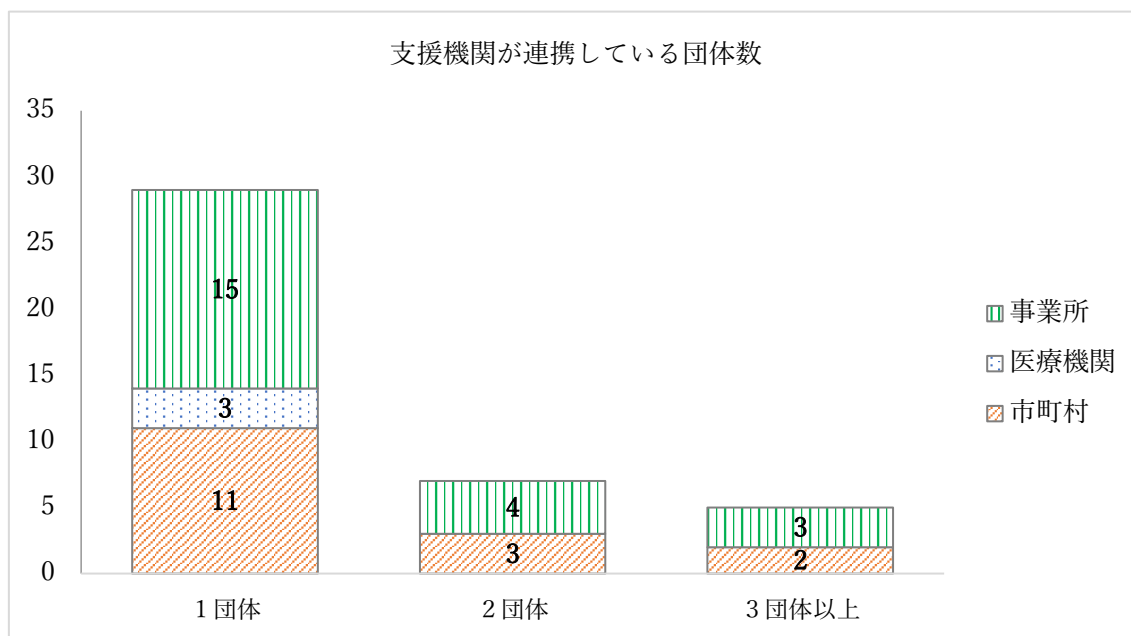
図表 49 支援機関が連携している団体数（支援機関別）

	市町村	医療機関	事業所	全体
1 団体	11 (68.8%)	3 (100.0%)	15 (68.2%)	29 (70.7%)
2 団体	3 (18.8%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	7 (17.1%)
3 団体以上	2 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	5 (12.2%)
計	16 (100.0%)	3 (100.0%)	22 (100.0%)	41 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

図表 50



①-3 連携している団体の活動分野（複数回答）

※①-1で「連携あり」と回答した支援機関のみ（16市町村、3医療機関、22事業所）

過去3年以内で「連携あり」と回答した支援機関のうち、支援機関が連携している団体の活動分野は、「こころの病気全般」が全体の7割だった。市町村は、こころの病気全般以外にも幅広く連携していた。全ての事業所は、こころの病気全般と連携していた。

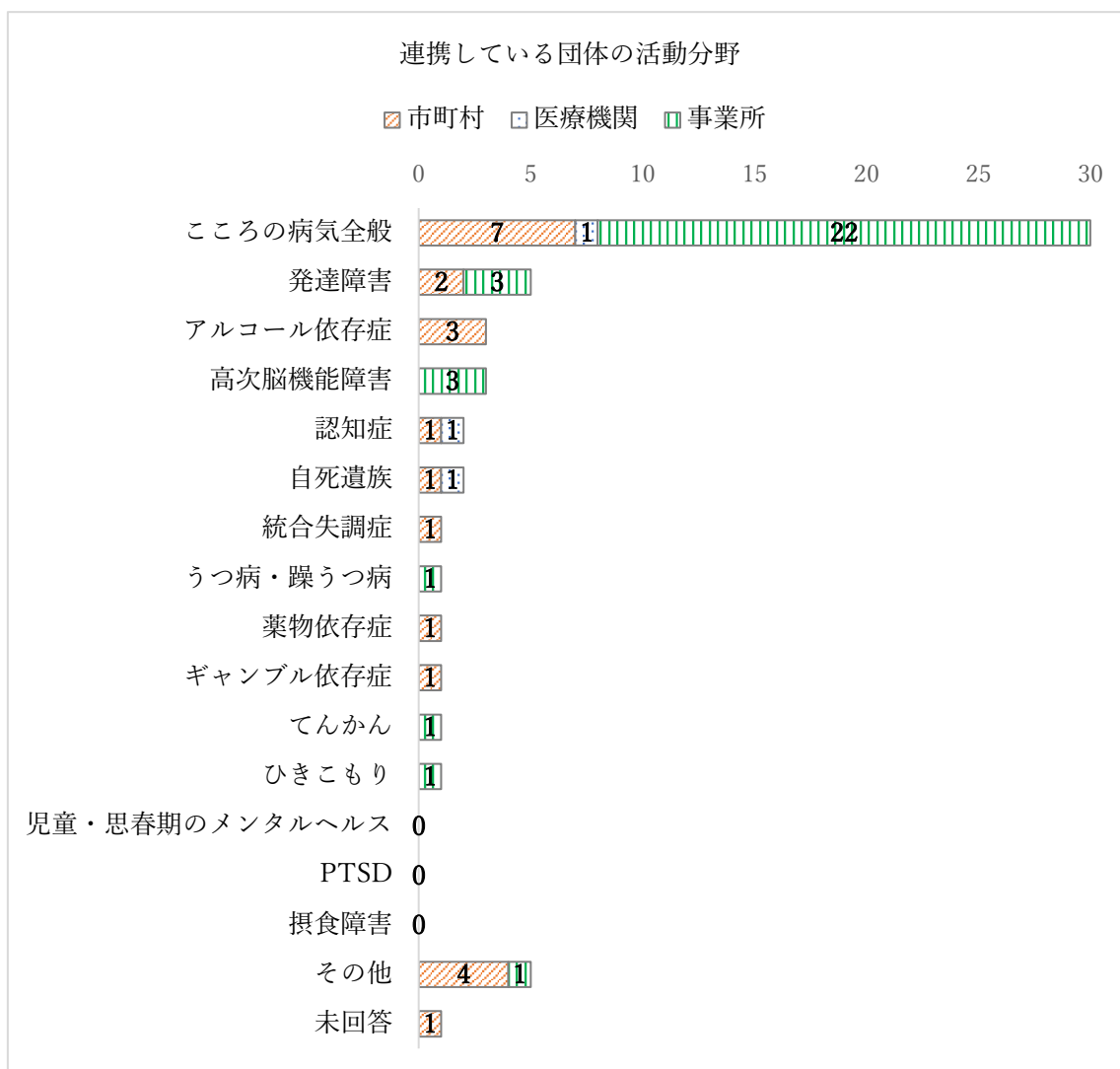
図表 51 連携している団体の活動分野（支援機関別）

項目	市町村	医療機関	事業所	全体
こころの病気全般	7 (43.8%)	1 (33.3%)	22 (100.0%)	30 (73.2%)
発達障害	2 (12.5%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	5 (12.2%)
アルコール依存症	3 (18.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)
高次脳機能障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (13.6%)	3 (7.3%)
認知症	1 (6.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)
自死遺族	1 (6.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	2 (4.9%)
統合失調症	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)
うつ病・躁うつ病	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (2.4%)
薬物依存症	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)
ギャンブル依存症	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)
てんかん	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (2.4%)
ひきこもり	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (2.4%)
児童・思春期のメンタルヘルス	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
PTSD	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
摂食障害	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	4 (25.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	5 (12.2%)
未回答	1 (6.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (2.4%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

図表 52



※市町村 (n=16)、医療機関 (n=3)、事業所 (n=22)、全体 (n=41)

①-4 連携内容：支援機関から団体への連携内容（複数回答）

※①-1で「連携あり」と回答した支援機関のみ（16市町村、3医療機関、22事業所）

過去3年以内で「連携あり」と回答した支援機関のうち、支援機関から団体への連携内容では、「広報への協力」と「ミーティング・勉強会への参加」が最も多く、次いで、「新規利用や見学の相談」となった。

市町村では、広報への協力が最も多く、事業所では、ミーティング・勉強会への参加が多かった。

図表 53 支援機関から団体への連携内容（支援機関別）

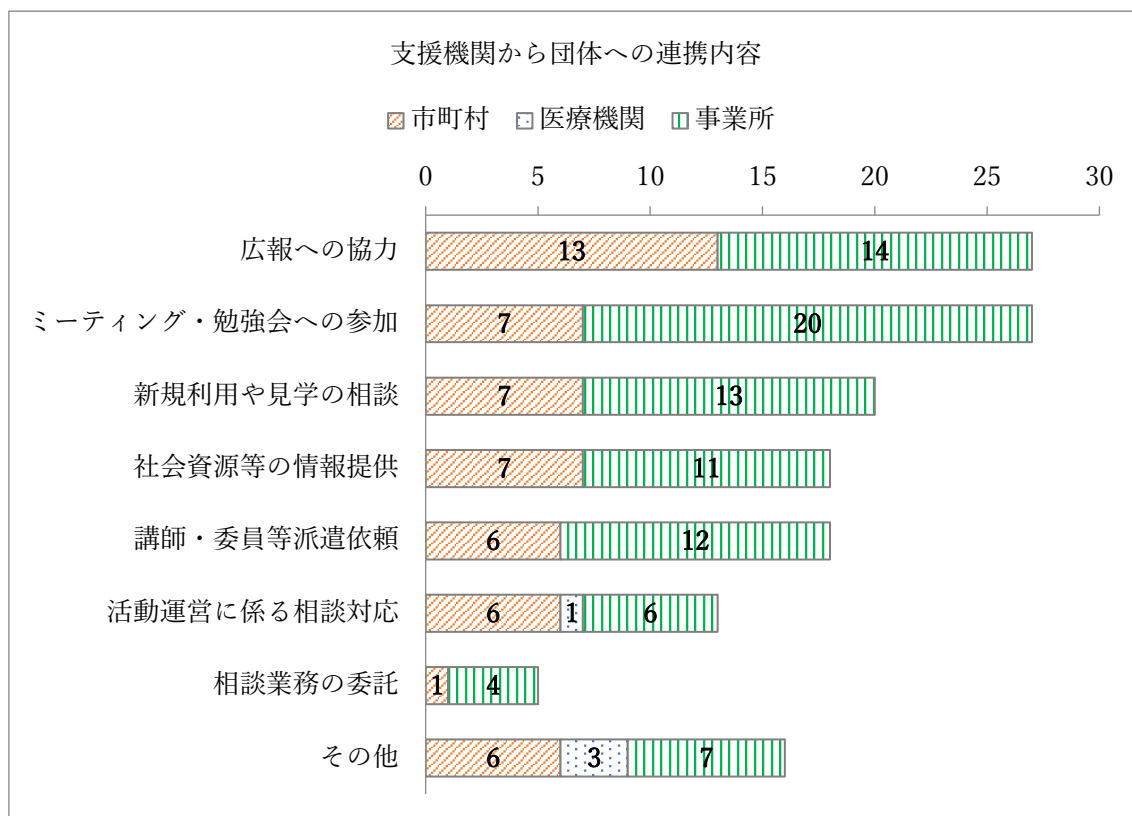
項目	市町村	医療機関	事業所	全体
広報への協力	13 (81.3%)	0 (0.0%)	14 (63.6%)	27 (65.9%)
ミーティング・勉強会への参加	7 (43.8%)	0 (0.0%)	20 (90.9%)	27 (65.9%)
新規利用や見学の相談	7 (43.8%)	0 (0.0%)	13 (59.1%)	20 (48.8%)
社会資源等の情報提供	7 (43.8%)	0 (0.0%)	11 (50.0%)	18 (43.9%)
講師・委員等派遣依頼	6 (37.5%)	0 (0.0%)	12 (54.5%)	18 (43.9%)
活動運営に係る相談対応	6 (37.5%)	1 (33.3%)	6 (27.3%)	13 (31.7%)
相談業務の委託	1 (6.3%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	5 (12.2%)
その他	6 (37.5%)	3 (100.0%)	7 (31.8%)	16 (39.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

※その他：事業の運営企画、各種会議等への参画等

図表 54



※市町村 (n=16)、医療機関 (n=3)、事業所 (n=22)、全体 (n=41)

①-5 連携内容：団体から支援機関への連携内容（複数回答）

※①-1で「連携あり」と回答した支援機関のみ（16市町村、3医療機関、22事業所）

過去3年以内で「連携あり」と回答した支援機関のうち、団体から支援機関への連携内容では、「活動に関する情報提供」が最も多く、次いで、「研修会や講演会等での講師対応」となった。

支援機関別では、市町村、事業所ともに、「活動等に関する情報提供」が8割、「研修会や講演会等での講師対応」が4割だった。

図表 55 団体から支援機関への連携内容（支援機関別）

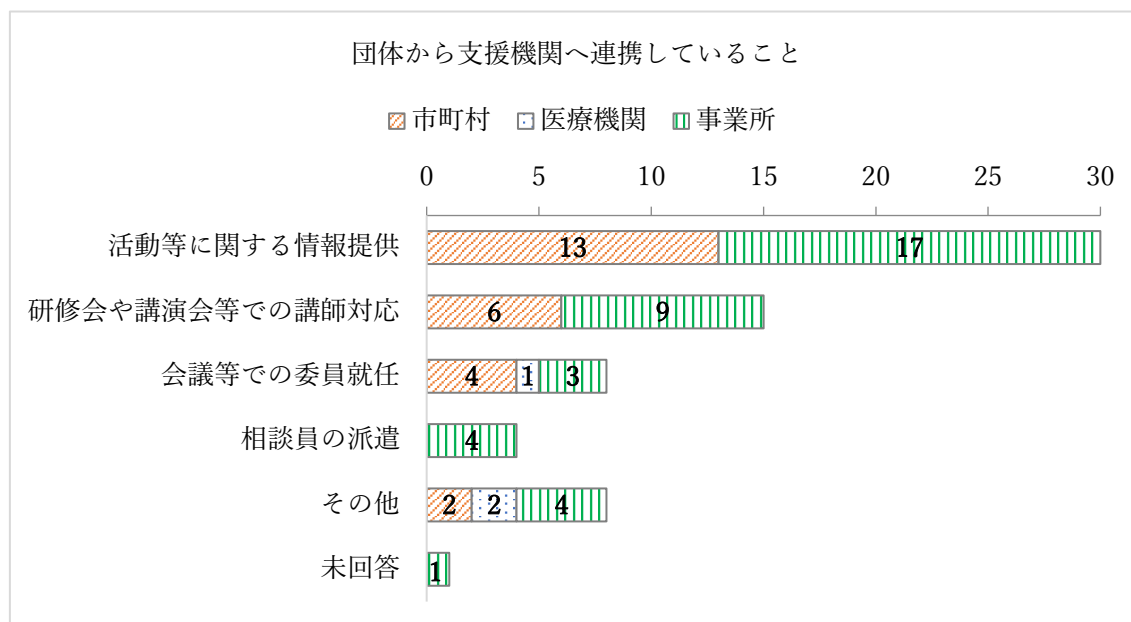
項目	市町村	医療機関	事業所	全体
活動等に関する情報提供	13 (81.3%)	0 (0.0%)	17 (77.3%)	30 (73.2%)
研修会や講演会等での講師対応	6 (37.5%)	0 (0.0%)	9 (40.9%)	15 (36.6%)
会議等での委員就任	4 (25.0%)	1 (33.3%)	3 (13.6%)	8 (19.5%)
相談員の派遣	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (18.2%)	4 (9.8%)
その他	2 (12.5%)	2 (66.7%)	4 (18.2%)	8 (19.5%)
未回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (4.5%)	1 (2.4%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

※その他：事業の運営企画、各種会議等への参画、補助金の情報提供等

図表 56



※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

①-6 謝金の対応（複数回答）

※①-1で「連携あり」と回答した支援機関のみ（16市町村、3医療機関、22事業所）

過去3年以内で「連携あり」と回答した支援機関のうち、団体へ謝金対応している支援機関は、3割であった。謝金を支払っている支援機関では「研修会や講演会等での講師対応」「会議等での委員就任」等で連携しているところが多かった。

図表 57 謝金の対応

項目	市町村	医療機関	事業所	全体
謝金あり	8 50.0%	0 0.0%	6 27.3%	14 34.1%
謝金なし	8 50.0%	3 100.0%	15 68.2%	26 63.4%
未回答	0 0.0%	0 0.0%	1 4.5%	1 2.4%
計	16 100.0%	3 100.0%	22 100.0%	41 100.0%

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=16）、医療機関（n=3）、事業所（n=22）、全体（n=41）

①-7 当事者・家族「個人」との連携（単一回答）

支援機関調査の回答全体のうち、当事者・家族「個人」と連携している支援機関は、10 か所であった。具体的には、会議等への参画や講師依頼、啓発活動、事業・日中活動等の協働等、幅広く連携している。

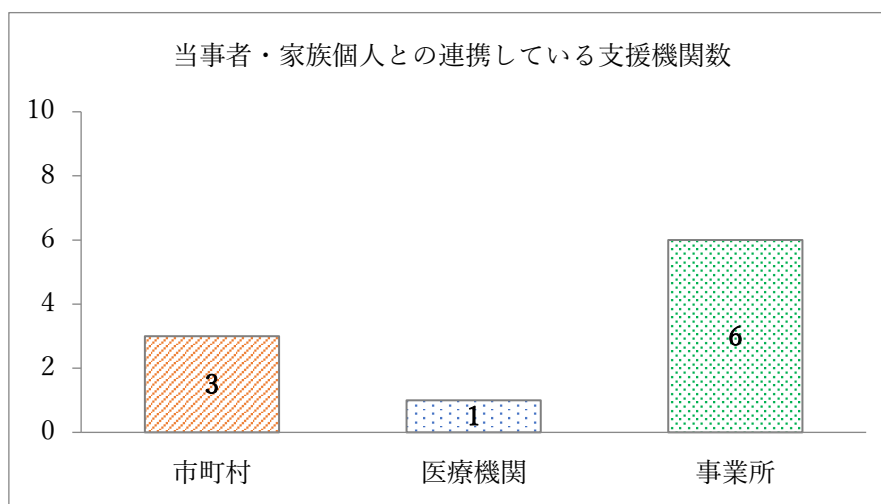
図表 58 当事者・家族「個人」との連携（支援機関別）

項目	市町村	医療機関	事業所	計
連携あり	3 (8.6%)	1 (2.9%)	6 (4.4%)	10 (4.8%)
連携なし	32 (91.4%)	34 (97.1%)	131 (95.6%)	197 (95.2%)
計	35 (100.0%)	35 (100.0%)	137 (100.0%)	207 (100.0) %

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）

図表 59



※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）

①-8 連携に至らない理由（複数回答）

※①-1で「過去3年以内に当事者・家族団体と連携なし」と回答した支援機関19市町村、32医療機関、115事業所

団体との連携に至らない理由について、全体では、「連携する体制が整っていない」が半数を占めており、次いで、「連携するノウハウがない」、「業務多忙等により情報収集に取り組めないため」であった。また、「現時点では、連携する必要性を感じていない」との回答は、2割であった。

市町村では、「連携する体制が整っていない」「当事者・家族団体の情報の入手先がわからないため」「連携するノウハウがない」が多かった。

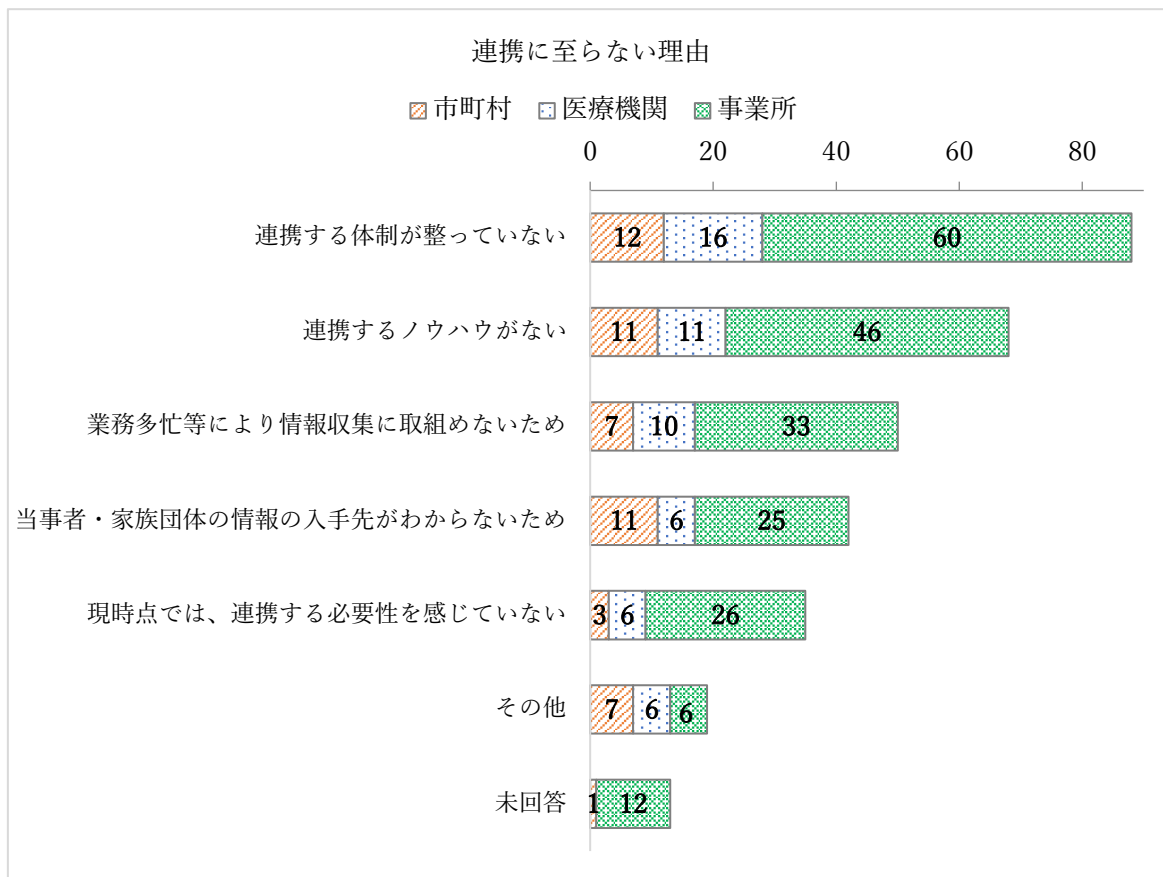
図表 60 連携に至らない理由（支援機関別）

項目	市町村	医療機関	事業所	全体
連携する体制が整っていない (組織体制、予算、協働に係るルールづくり)	12 (60.0%)	16 (50.0%)	60 (52.2%)	88 (52.7%)
連携するノウハウがない (当事者・家族団体活用の準備やフォロー体制)	11 (55.0%)	11 (34.4%)	46 (40.0%)	68 (40.7%)
業務多忙等により情報収集に取り組めないため	7 (35.0%)	10 (31.3%)	33 (28.7%)	50 (29.9%)
当事者・家族団体の情報の入手先がわからないため	11 (55.0%)	6 (18.8%)	25 (21.7%)	42 (25.1%)
現時点では、連携する必要性を感じていない	3 (15.0%)	6 (18.8%)	26 (22.6%)	35 (21.0%)
その他	7 (35.0%)	6 (18.8%)	6 (5.2%)	19 (11.4%)
未回答	1 (5.0%)	0 (0.0%)	12 (10.4%)	13 (7.8%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=19）、医療機関（n=32）、事業所（n=115）、全体（n=166）

図表 61



※市町村 (n=19)、医療機関 (n=32)、事業所 (n=115)、全体 (n=166)

①-9 連携によるプラスの効果（当事者・家族の視点）（複数回答）

3年以内に団体と連携のある支援機関とない支援機関の比較では、「困りごとの解決のために情報収集することができる」「ピアサポートを提供する当事者の自尊心が向上しリカバリーが促進される」の項目の差が特に大きくなっている。

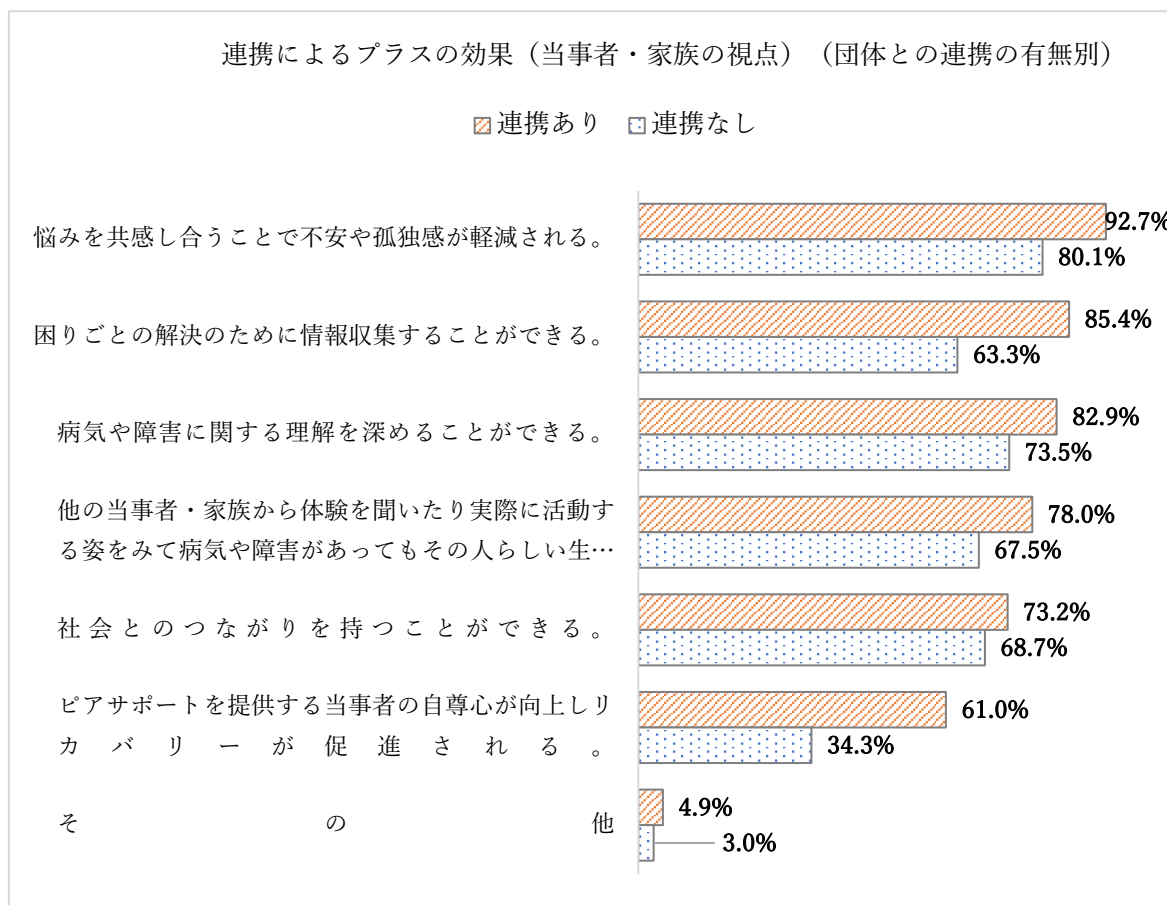
図表 62 連携によるプラスの効果（当事者・家族の視点）（団体との連携の有無別）

項目	3年以内に 団体と連携あり	3年以内に 団体と連携なし
悩みを共感し合うことで不安や孤独感が軽減される。	38 (92.7%)	133 (80.1%)
困りごとの解決のために情報収集することができる。	35 (85.4%)	105 (63.3%)
病気や障害に関する理解を深めることができる。	34 (82.9%)	122 (73.5%)
他の当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。	32 (78.0%)	112 (67.5%)
社会とのつながりを持つことができる。	30 (73.2%)	114 (68.7%)
ピアサポートを提供する当事者の自尊心が向上しリカバリーが促進される。	25 (61.0%)	57 (34.3%)
その他	2 (4.9%)	5 (3.0%)
未回答	0 (0.0%)	1 (0.6%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

図表 63



※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

①-10 連携によるプラスの効果（一般住民の視点）（複数回答）

3年以内に団体と連携のある支援機関とない支援機関の比較では、「病気や障害への理解が促進されスティグマが軽減される」「当事者の地域での生活をイメージしやすくなる」の項目が特に高くなっている。

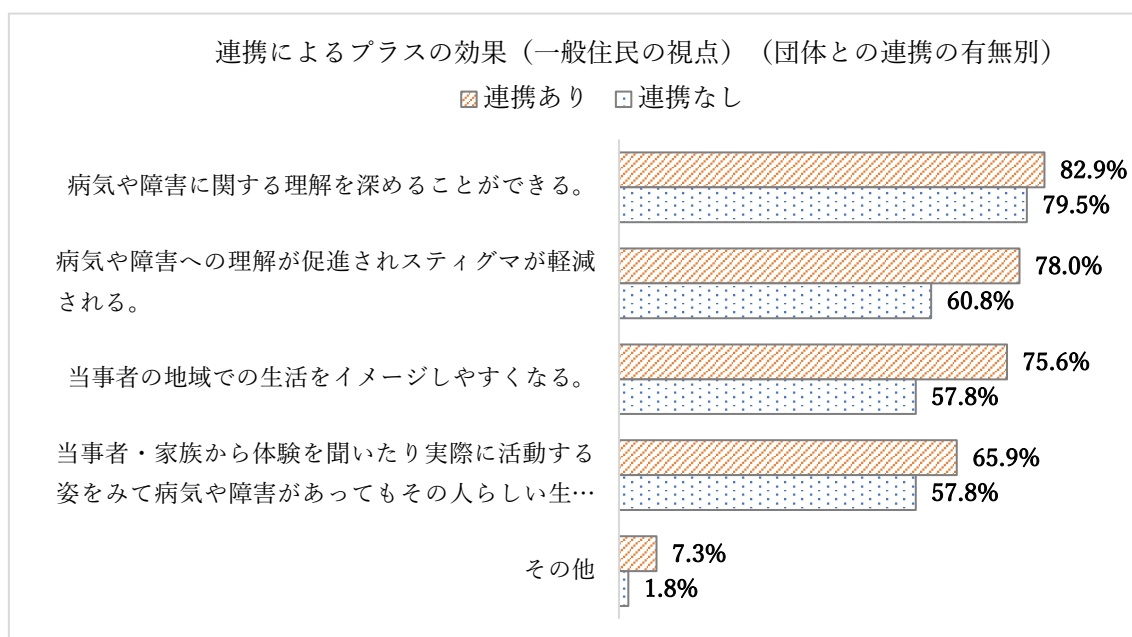
図表 64 連携によるプラスの効果（一般住民の視点）（団体との連携の有無別）

項目	3年以内に 団体と連携あり	3年以内に 団体と連携なし
病気や障害に関する理解を深めることができる。	34 (82.9%)	132 (79.5%)
病気や障害への理解が促進されスティグマが軽減される。	32 (78.0%)	101 (60.8%)
当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。	31 (75.6%)	96 (57.8%)
当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。	27 (65.9%)	96 (57.8%)
その他	3 (7.3%)	3 (1.8%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

図表 65



※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

①-11 連携によるプラスの効果（支援機関の視点）（複数回答）

3年以内に団体と連携のある支援機関とない支援機関の比較では、「当事者の地域での生活をイメージしやすくなる」「病気や障害への理解が促進されスティグマが軽減される」「当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて病気や障害があってもその人らしい生活を送ることができる」の割合の差が大きくなっている。

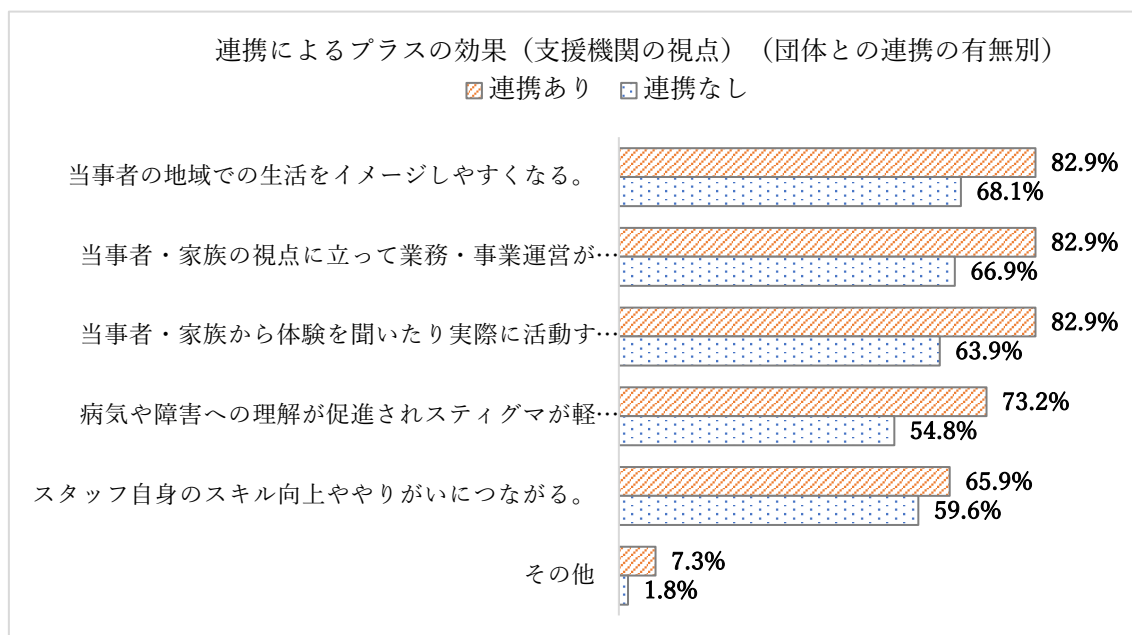
図表 66 連携によるプラスの効果（支援機関の視点）（団体との連携の有無別）

項目	3年以内に 団体と連携あり	3年以内に 団体と連携なし
当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。	34 (82.9%)	113 (68.1%)
当事者・家族の視点に立って業務・事業運営ができる。	34 (82.9%)	111 (66.9%)
当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。	34 (82.9%)	106 (63.9%)
病気や障害への理解が促進されスティグマが軽減される。	30 (73.2%)	91 (54.8%)
スタッフ自身のスキル向上ややりがいにつながる。	27 (65.9%)	99 (59.6%)
その他	3 (7.3%)	3 (1.8%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

図表 67



※連携あり（n=41）、連携なし（n=166）

② 行政へ期待すること（複数回答）

行政へ期待することでは、「当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場・ネットワークづくり」と最も多く、次いで、「当事者・家族団体活動に関する情報提供」、「地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信」となった。

市町村と事業所では「当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場・ネットワークづくり」が最も高かったが、医療機関では「当事者・家族団体活動に関する情報提供」が最も高かった。

図表 68 行政へ期待すること（支援機関別）

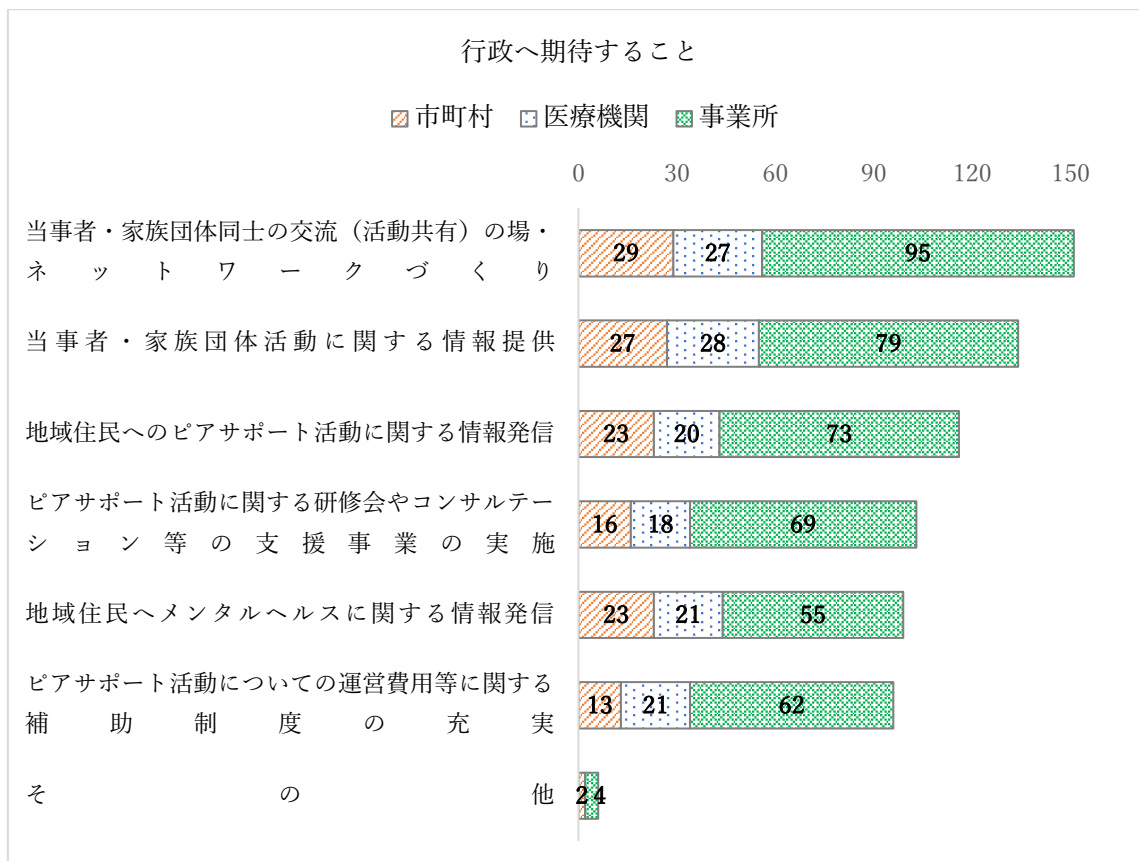
項目	市町村	医療機関	事業所	全体
当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場・ネットワークづくり	29 (82.9%)	27 (77.1%)	95 (69.3%)	151 (72.9%)
当事者・家族団体活動に関する情報提供	27 (77.1%)	28 (80.0%)	79 (57.7%)	134 (64.7%)
地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信	23 (65.7%)	20 (57.1%)	73 (53.3%)	116 (56.0%)
ピアサポート活動に関する研修会や コンサルテーション等の支援事業の実施	16 (45.7%)	18 (51.4%)	69 (50.4%)	103 (49.8%)
地域住民へメンタルヘルスに関する 情報発信	23 (65.7%)	21 (60.0%)	55 (40.1%)	99 (47.8%)
ピアサポート活動についての運営費 用等に関する補助制度の充実	13 (37.1%)	21 (60.0%)	62 (45.3%)	96 (46.4%)
その他	2 (5.7%)	0 (0.0%)	4 (2.9%)	6 (2.9%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

※その他：事業の運営企画、各種会議等への参画等

図表 69



※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

③ ピアサポート/ピアサポーターについて

③-1 ピアサポーターの用語の認知

ピアサポーターの用語を認知している支援機関は、全体で約6割であった。

支援機関別にみると、「知っている」と回答した市町村と事業所は、6割を超えている。

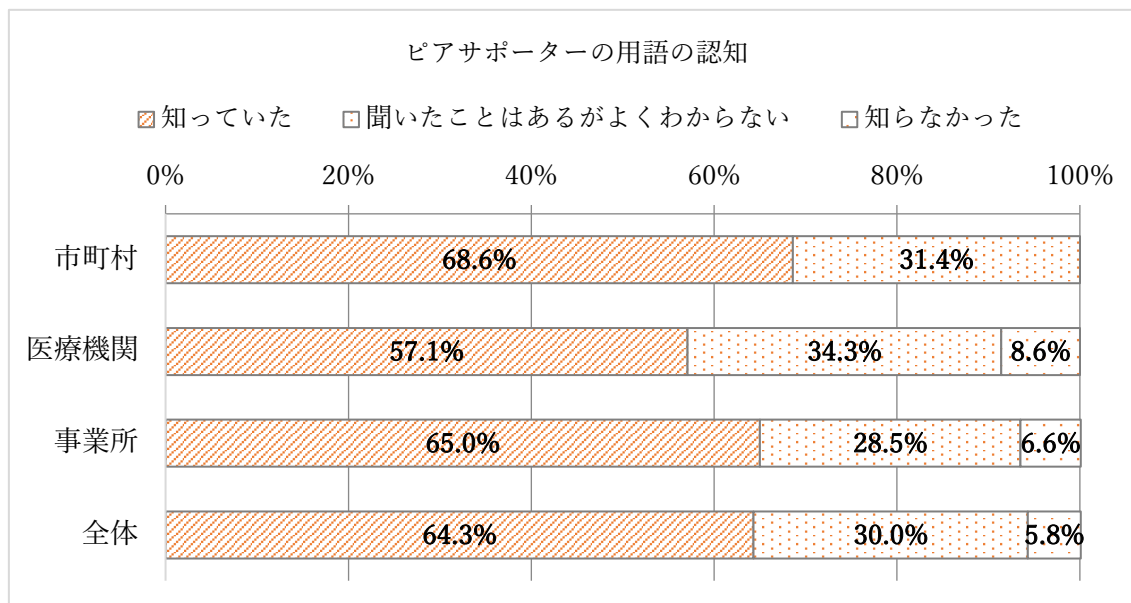
図表 70 ピアサポーターの用語の認知（支援機関別）

項目	市町村	医療機関	事業所	全体
知っていた	24 (68.6%)	20 (57.1%)	89 (65.0%)	133 (64.3%)
聞いたことはあるが よくわからない	11 (31.4%)	12 (34.3%)	39 (28.5%)	62 (30.0%)
知らなかった	0 (0.0%)	3 (8.6%)	9 (6.6%)	12 (5.8%)
計	35 (100.0%)	35 (100.0%)	137 (100.0%)	207 (100.0%)

※上段：件数、下段：割合＝回答数/n

※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

図表 71



※市町村（n=35）、医療機関（n=35）、事業所（n=137）、全体（n=207）

③-2 ピアサポーターとしての活動

ピアサポーターが所属していると回答した支援機関は、7カ所であった。
7カ所はすべて事業所であり、所在地をみると、仙台市、石巻市、登米市となっていた。

③-3 ピアサポーターの活動人数（令和6年10月1日時点）

ピアサポーターが所属していると回答した支援機関のうち、6事業所では1名、1事業所では2名が活動している。

③-4 雇用状況（形態）

ピアサポーターが所属していると回答した支援機関のうち、雇用状況（形態）としては、常勤が3事業所、非常勤・パートタイム労働者が3事業所であった。

④ 今後のピアサポート活動の推進に関する意見・要望

意見・要望では、情報提供や情報発信、団体の運営や活動の継続、ピアサポーターの人材育成や活動推進体制に関する意見が聞かれた。主な意見は下記のとおり。

- 1) ピアサポーターの活動や協働している支援機関の情報提供・情報発信に関すること
 - ・実際にピアサポーターとして活動するための情報が不足している。
 - ・自助グループやボランティアの活動は、なかなか知ってもらえないことがある。
 - ・実際に取組んでいる事業所の話を知りたい。
 - ・紙媒体だけでなく、ある程度予算をかけ、マスメディアなどを活用し、個人や民間ではできない認知度をあげる施策が必要。
- 2) 当事者・家族会の運営や活動の継続に関すること
 - ・新たな活動の立ち上げや活動の知識や経験、実際の実践を知る機会が欲しい
 - ・当事者の主体性を尊重し、主催者や運営スタッフを当事者が担うことが望ましいが、活動基盤や継続性について、行政などの支援が必要。
 - ・安全に運営するためのガイドラインがあるとよい。支援者が関与する範囲、秘匿性を含め安心して参加するための枠組みの設定などについて、例示があるとよい。
 - ・運営資金の調達や活動場所の確保が課題。
- 3) ピアサポーターに関する人材育成や活用推進体制に関すること
 - ・メンタルヘルスに関する職員の知識・技術が不足している。
 - ・精神障害者の方の支援について悩んだ際に、相談する手立てがわからなかった。
 - ・地域で活動している当事者の把握が必要。
 - ・ピアサポート研修が少なすぎる。
 - ・ピアサポートについて、スーパーバイズできる人がいない。
 - ・すべての事業所にピア加算がない。
 - ・障害を一括りにせず、知的・精神・身体障害向けとして細分化した活動支援が必要。

- ・ 県として一括した依頼窓口（活動したい人、活用したい人向け）が必要。
- ・ 市町村単位の取組みは限度があり、県を挙げて推進して欲しい。

4) その他

- ・ ピアサポート活動について初めて知った。このような活動は当事者にとって大切な活動である。もっと学び、広めていけるよう力になりたい。
- ・ ピアサポート活動について情報収集し、理解を深めていきたい。
- ・ 当施設を利用している利用者様を、ピアサポーターとして雇用したいと考えている。

2 質的調査

(1) 当事者・家族会調査

質的調査の対象者 26 名のうち、当事者・家族会の方 5 名を対象に、以下 3 つの項目についてヒアリング調査を実施した。調査結果は、図表 72～74 のとおり。

図表 72

①ピアサポートを知ったきっかけ
<ul style="list-style-type: none">・作業所でチラシをみた・インターネットで知った・主治医からの紹介・今回の作業部会を機に知った

図表 73

②(当事者・家族として) 大変だったこと、支え・励みになったこと、支え合いで感じている効果等
<p>○大変だったこと・苦労したこと</p> <ul style="list-style-type: none">・発病前と同じように働けないことへの焦り・車の運転ができなくなり、仕事を辞めざるを得なかった。・休職せざるを得ない挫折感や屈辱感がある一方、ほっとした気持ちもあった。・当事者と支援者の線引きにもどかしさを感じたことがあった。 <p>○支えになったこと・励みになったこと</p> <ul style="list-style-type: none">・ピアサポート活動を通して多くの人と繋がれた。・自身が病気となったことで、詳しくわからなかった疾患を理解する機会になった。・知人が同じ疾患になり、相談役になれた。・一般就労や同僚の支えが回復の転機となり、自分らしさに気付くことができた。・主治医や家族、職場の理解に支えられ、仕事を続けることができた。・病気の理解も必要だが、「配慮が必要な人」という理解や関わりに助けられている。・相談機関とつながり、面接や他の家族の話聞くことで、多くの学びを得た。・「安心して弱音を吐ける場所」として、当事者会との出会いに助けられた。 <p>○当事者・家族同士での支え合いで感じている効果</p> <ul style="list-style-type: none">・家族会で参加者の良い変化をみることで、自分自身の変化に気が付く。・「よき理解者の存在」は、相談相手として心の支えになる。・病気と向き合うヒントや社会資源を学ぶ機会になる。・世話人の役割を担っているが、自分も話を聴いてもらい苦しみが遠ざかる感覚がある。

図表 74

<p>③ピアサポートが広がるために必要と感ずること</p> <p>○普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none">・ピア、ピアサポート、ピアサポーターについて知ってもらうこと。・幅広い人に対して疾患の理解を広げること。(一般イベントへのブース出展など)・地域へ正しい知識を伝えること。 <p>○情報発信</p> <ul style="list-style-type: none">・わかりやすい内容(専門用語を少なくするなど)、伝わりやすい周知方法を考える。・行政からの情報発信。困った時には行政を頼ることが多いため。・紙一枚で、相談先や社会資源の情報がまとまっているもの。・当事者・家族会ホームページにリンクを貼り、自分に合う場所へ繋がるようにする。 <p>○人材育成</p> <ul style="list-style-type: none">・ピアサポーターの活動は当事者それぞれに合うもの、合わないものがある。また、地域のニーズにもよる。人材育成とマッチングが重要。・当事者同士の関係性が、「支援する側」「支援される側」という構図にならないように慎重に考えたほうが良い。 <p>○当事者・家族会の在り方の検討</p> <ul style="list-style-type: none">・同じメンバーの家族会が複数あり、地域の受け皿が少ない現実を感じた。・当事者・家族会同士の交流会等による情報共有や意見交換の場は必要。・当事者会は、参加者が少なくなったとしても、それは自然な姿。あくまでも淡い付き合いが続いていければいいと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none">・行政との連携があると安心する。・他県の取組も参考するとよい。
--

(2) 支援機関調査

質的調査の対象者 26 名のうち 13 名に対し、以下 3 つの項目について、量的調査（速報値）に関する意見照会を実施した。支援機関調査の対象者の内訳は、市町村 3 名、医療機関 3 名、事業所 6 名、職域団体 1 名であった。調査結果は、図表 75～77 のとおり。

図表 75

① 実際に当事者・家族会との連携に至らない背景

○情報把握・周知不足

- ・地域課題の抽出が難しく、どの分野で連携していけばよいのかアセスメントができない。(市町村)
- ・当事者会の情報を把握できていないため、連携に繋がらない。(市町村)
- ・当事者・家族会等の存在が関係者に知られていない。(事業所/職域)
- ・会の存在や例会のお知らせ等の広報が不足しているが、SNS 等のスキルを持った方が会員にいない(情報宣伝不足)。(事業所)

○連携するための体制の未整備

- ・連携するための体制(予算面、連携のノウハウ等)が整っていない。(市町村)
- ・プラスの効果があると思うが、受け入れる際の体制づくりが業務に忙殺されて難しい。(医療機関)

○ピアサポート活用のしくみの未整備

- ・当事者、家族がスタッフとして登録している等、活動を依頼する際の窓口が整備されていないため、連絡をとる方法がわからない。(事業所)
- ・連携内容等に関して、当事者、家族会が望むことと、事業所ができることを確認・共有する機会が限られている。(事業所)
- ・事業所の対象地域が広域で個々に繋がる機会はあるものの、対象地域全体での共有には至らない。(事業所)
- ・当事者、家族等が保健師以外の支援者との伝手を持たない。または、事業所側が当事者、家族等とつながる手立てがわからない。(事業所)
- ・医療機関とつながりたいと思っても、誰かに橋渡ししてもらわないと自分から依頼に行けないご家族も多いと感じる(病院の敷居が高い)。(事業所)

○立場や視点の違いによる連携の難しさ

- ・福祉、医療、行政それぞれの立場や視点の違いにより、連携のイメージや目的も異なり、連携に至らない背景も様々。それぞれの事情を考慮した連携の仕方など、柔軟に考えることが大事。(市町村)
- ・行政機関の当事者・家族会に関する担当課が保健分野で、福祉分野との接点が希薄。(事業所)

○知識・理解不足

- ・スタッフ側の知識不足(ピアサポート活動の目的や役割、効果等)がある。(医療機関)
- ・医療関係者は適切な知識を有すると考えられているが、一方で専門家ほど偏見が強いという研究報告もある。(医療機関)

図表 76

② 量的調査「問9.行政に期待すること」について、
「情報提供・情報発信」、「交流の場・ネットワークづくり」について具体的に求めること

○情報提供・情報発信

- ・地域にどのような当事者・家族会があるのかを知る機会や情報を提供してほしい。(事業所)
- ・様々な手続きで窓口に来た方に対し、当事者会や家族会等の紹介をすると良い。(医療機関)
- ・当事者・家族会が困った時の相談先を担う。(医療機関)
- ・行政よりも、当事者・家族会や支援機関の方がインフォーマルな情報も含めて地域の情報を持っているので、それらの情報を集約して発信する仕組みが必要。(市町村)
- ・当事者・家族会の活動内容、他支援機関における活用状況等に関する情報提供。(行政)

○交流の場

- ・当事者家族会同士の交流の場があると良い。(当事者/行政)
- ・出会いの場やマッチングの手伝いをしてほしい。(事業所)

※具体的に、①事業所紹介イベントの企画 ②研修会(家族セミナーなど)を二部構成にして、地域交流タイムを設ける ③団体と支援機関を集めてワールドカフェ形式の集団お見合い会のようなものを開催する。

○ネットワークづくり

- ・支援機関と当事者会の橋渡し役。(事業所)
- ・保健所管内を軸に、基幹相談支援センター、宮城県精神障がい者家族連合会、精神保健福祉協会等が連携してネットワークをつくる。(市町村)

○普及啓発

- ・気兼ねなくオープンな形による病気の理解や勉強会の場があると良い。(医療機関)
- ・行政が定期的に研修会を実施する。(医療機関)
- ・力があり啓発的な当事者が医療関係者にピアサポートの意義について講演を行うような事業を県独自の事業として展開すること等を検討してほしい。(医療機関)

○報酬・補助金等

- ・寛解に至るまでのプロセスが身につくような自立のシステム等に助成をしてほしい。(当事者)
- ・経済的な面の問題も大事なので、当事者、家族会へ何かしらの報酬・補助金等があると良い。(医療機関)

図表 77

<p>③ どのように情報収集を行っているか</p> <p>○生の声・体験に基づく情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・当事者・家族から話を聞く（市町村／事業所／医療機関）・関係のある当事者から聞く（市町村／医療機関／事業所／職域）・行政担当者や相談支援事業所等、支援機関からの情報（市町村／医療機関／事業所） <p>○団体・会合から得る情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・家族会の勉強会での情報交換（市町村）・自助グループのオープンミーティングに参加し、機関代表者と関係を構築（市町村）・当事者・家族会等団体の定例会に参加（事業所） <p>○電子媒体からの情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・インターネット（ホームページ等）で調べる（当事者／市町村／医療機関／事業所／職域）・SNS で調べる（事業所） <p>○紙媒体からの情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・パンフレットやチラシの活用（事業所／医療機関） <p>○調査・アンケートによる情報収集</p> <ul style="list-style-type: none">・管内市町を対象に、ピアサポーター活用状況等のアンケート調査を実施（市町村）
--

図表 78

<p>④ 量的調査結果（速報値）全体を通して感じたこと</p>
<p>○ピアサポーターに関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ピアサポーターの役割の明確化をすることで連携をとりやすくなると感じる（市町村）・ピアサポーターの養成や登録の推進、役割に関する啓発が必要（市町村）
<p>○当事者会・地域連携に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・当事者会等の活動情報を把握し、地域支援者や当事者、当事者会等との橋渡しをする機関が必要（市町村）・地元の当事者・家族会と長年の付き合いのあることが特殊なのかもしれない（事業所）・時代に合った新たな団体のあり方を模索する時に来ていると思う（ホームページやSNSの活用等）（事業所）
<p>○活動状況の把握・発信に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・実際に事業所で働いている、講演活動をしている等の活動状況を知る機会を増やす（医療機関）
<p>○支援制度・資源に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・助成金などを具体的に拡充すると良いと思う（職能団体）
<p>○研究・社会的効果に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・ピアサポートや当事者家族の活動がどんなポジティブな効果を社会に与えていくのか、連携した活動を通じてなにが変わったのか、研究をしていくことも必要と思う（職能団体）
<p>○実態把握・調査に関する意見</p> <ul style="list-style-type: none">・分からなかった実態を把握したことは大きなことだと思う（市町村）・当事者・家族の活動（ピアサポート活動）実態をデータで知る機会となり良かった（事業所）・専門機関からの調査回収率が低いことが、ピアサポートに対する専門家の意識の現状を反映している（医療機関）・今回の調査で要望が多かったことに対し、継続性をもって関わっていく必要がある（医療機関）

第3章 作業部会の検討内容

1 第1回 作業部会

(1) 概要

開催日時：令和6年11月27日（水）午後1時30分から午後3時まで

開催場所：みやぎハートフルセンター3階小会議室

出席者：部会員全員参加

(2) 議題

①当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査（速報値）について

②今後のスケジュール等について

(3) 主な意見

事務局より、実態調査（量的調査）の速報値を報告した。主な意見は下記のとおり。

①情報発信・情報提供について

- ・ピアサポート、ピアサポーターに関する情報の入手先や入手方法がわからない。
- ・わかりやすい言葉で、幅広い情報からニーズに沿って取捨選択が可能な情報提供・発信が必要である。

②当事者・家族会の運営・活動について

- ・インターネットの普及や集まりを好まない世代もいる。オンライン等多様な選択肢が必要。

③ピアサポートの認知度や養成について

- ・当事者や家族と協働するイメージを持っている支援者が少ない。
- ・マッチングの課題。支援者は、ピアサポートの有効性や効果は認識しているものの、誰でも良いわけではなく、ニーズに合った人材を求めている。
- ・支援機関側は行政の後方支援があると、活用しやすい。（支援機関側の考え・個人情報の問題等）

④交流の場、地域のネットワークづくりが進んでいない。

- ・ピアサポート活動のネットワークの中心を担う機関が必要。
（例：基幹相談支援センターが地域の相談支援のバックアップを担っている。）

2 第2回 作業部会

(1) 概要

開催日時：令和6年12月20日（金）午前10時から午前11時30分まで

開催場所：みやぎハートフルセンター3階小会議室

出席者：部会員全員参加

(2) 議題

①報告：量的調査結果・質的調査結果について

②協議：実態調査を踏まえた課題について

(3) 結果

量的調査・質的調査結果を報告し、第1回目のご意見を踏まえて、事務局から4つの課題（案）を示した。構成員から、4つの課題（案）について承認を得たうえで、今後、必要な取組みについてご意見をいただいた。（図表79のとおり）

図表 79

1 当事者・家族会の活動に関する情報提供・情報発信の不足

2 当事者・家族会の従来の運営・活動の継続が困難

3 交流の場・地域のネットワークづくりの整備が進んでいない

4 ピアサポーターの認知度が低い、人材育成の体制が整っていない

(4) 主な意見

① 課題1「当事者・家族会の活動に関する情報提供・情報発信の不足」

①-1 情報を収集・発信する窓口の設置

①-2 各地域での情報収集・発信の推進

各地域で自立支援協議会や圏域の協議の場などを活用し、ピアサポートやピアサポーターについて発信する手立てを企画することが必要。

①-3 多様な情報の発信：SNSの活用など、学生など若い世代に協力をもらう。

- ② 課題2 「当事者・家族会の従来の運営・活動の継続が困難」
- ②-1 安心して参加できる団体の運営や活動方法が必要
- ・悩みを話したくて団体に参加しても、不満や愚痴を聞く状況になってしまうことがある。
 - ・個人情報保護の心配がある。
- ②-2 団体同士の交流の場が必要。
- ・各団体の運営や活動だけでなく、ピアサポート活動やピアサポーターとして働く人のことも知る機会として、年一回でも開催する。
- ③ 課題3 交流の場・地域のネットワークづくりの整備が進んでいない
- ③-1 交流の場の必要性
- ・各圏域に、自由に行き来が可能で、オンラインの設備を備えた交流の場を設ける。集まりの場に出向くことが億劫又は苦手な人、交通機関の問題で難しい人も多い。情報を得たり、他の当事者や家族、支援者をつながりを持てる場があると、相談や支援につながりやすくなる。
 - ・昔のサロンのような、自由に過ごして帰れる、気軽に自分のタイミングで行ける場所を設けると良いのではないか。
- ③-2 地域のネットワークづくり
- ・市町村、圏域、県の取組みを、自立支援協議会や、にも包括の会議など、既存の枠組みを活用し、普及していく。
- ④ 課題4 「ピアサポーターの認知度が低い、人材育成の体制が整っていない」
- ④-1 早期からの情報提供
- ・発症早期から、経済面や生活面も含めて大きな不安がある。医療機関や自立支援医療申請の窓口（市町村）などでピアサポーターに相談できると良い。
- ④-2 ピアサポート活動の起点となる窓口が必要
- ・団体活動やピアサポート活動に関する情報を集積し、ピアサポーターの登録制度、団体と団体を結び付ける機能を持つ窓口が必要。
 - ・団体に所属していない当事者・家族個人も、ピアサポートを活用できる仕組みが必要。
- ④-3 ピアサポーターの養成や育成、活動支援
- ・令和7年度からピアサポーター養成研修が始まるが、継続的な学びの場が必要。
 - ・研修を受けたピアサポーターであれば関わりを持ちやすい人は多い。精神障害だけではなく、様々な分野でピアサポーターを育成することは、個別支援を推進につながる。
 - ・県でピアサポーターを雇用すると、活動が推進されるのではないか。

3 第3回 作業部会

(1) 概要

開催日時：令和7年1月22日（水）午後2時から午後3時30分まで

開催場所：みやぎハートフルセンター3階小会議室

出席者：部会員全員参加

(2) 議題

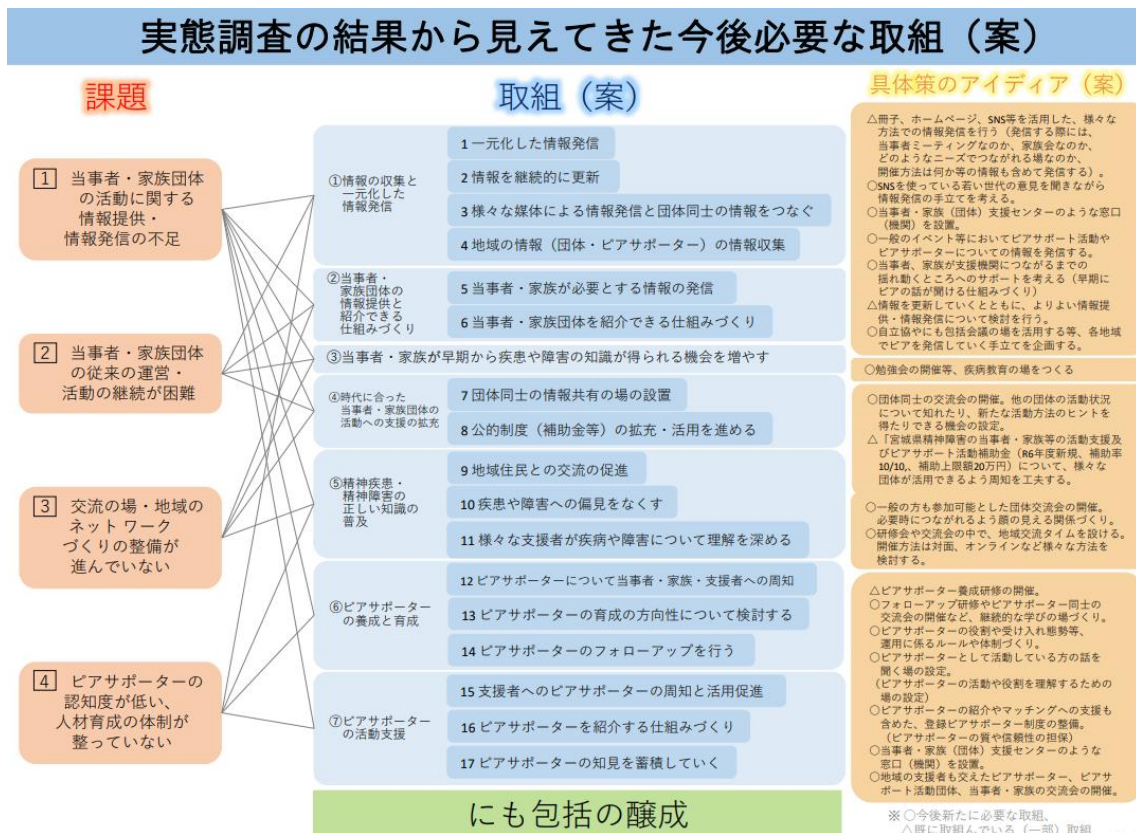
①報告：質的調査結果について

②協議：課題と今後必要な取組について

(3) 結果

「実態調査の結果から見てきた今後必要な取組（案）」を下記のとおり整理し、精神障害部会に報告することとなった。また、精神障害部会での報告を見据えて、取組（案）推進に関する具体策のアイデア等の意見、ピアサポーターに期待することを伺った。詳細は、図表80のとおり。

図表 80



(4) 「実態調査の結果から見えてきた今後必要な取組（案）」について

- ・取組みの方向性⑤「精神疾患・精神障害の正しい知識の普及」に関する取組（案）「⑩ 様々な支援者が疾病や障害について理解を深める」を追加。
- ・さらに、疾病や障害について理解を深めることは重要だが、その状態像は個人差が大きいことから、「生活者」として尊重し、関わって欲しいとの意見があった。

(5) 取組（案）推進に関する具体策のアイデア等の意見

- ・ピアサポート活動、ピアサポーターの情報集約、ピアサポーターの登録・マッチングなどの機能を有する窓口の設置。
- ・当事者・家族会の活動紹介や、活用できる制度等を周知する交流の場の設定。
- ・ピアサポーター養成後の仕組み（養成認定や雇用した場合の報酬）の検討。
- ・ピアサポーターの存在や効果に関する周知。
県がピアサポーターを雇用し事業所や医療機関へ派遣することなどにより、周知する。
- ・ピアサポーターと支援者が参加できる勉強会等の開催。
- ・ピアサポーターによる出前講座ややリーフレット等での周知。
- ・疾患や障害の知識を教育機関（若い世代）にも広げる。
- ・精神障害福祉に関するサービスが多種多様になっている。幅広い支援者に疾患や障害について理解を広げる。

(6) ピアサポーターに期待すること

- ・経験に基づく生活の工夫・知恵を体験談として伝えていただくことがピアサポーターの役割として求められている
- ・対価を発生した上で、相談支援機関や行政の窓口などでご本人の経験を基に本当に寄り添った支援をしてほしい。
- ・相談機関との面談までの期間等、当事者・家族が不安な時にサポートしてもらえると安心する。
- ・支援者との同行訪問の中で、具体的な生活支援の場にモデルとして見せてほしい。

第4章 考察・まとめ

1. 考察

作業部会では速報版の調査結果から検討いただいたが、調査結果を再度踏まえ、以下のとおり考察を述べる。

(1) ピアサポートの情報発信と当事者・家族団体と支援機関との連携推進

量的調査の結果、当事者・家族団体は、ミーティング（当事者同士の語り合い）や相談対応、勉強会の開催などを通じて、これまで継続的にピアサポート活動を行ってきたことが明らかとなった。一方で、当事者・家族団体ともに会員の主年齢層は高齢化しており、若い世代の参加が少ないこと、また例会や活動内容を広く周知するための広報体制が十分に整っていないことが明らかになった。特に、SNS 等を活用した情報発信を担う人材が不足しているとの声が多く聞かれた。

こうした状況の背景として、支援機関側においても、当事者・家族団体に関する情報不足が連携に至らない理由として挙げられていた。行政機関や事業所において、当事者・家族団体の存在自体は認識されているものの、具体的な活動内容や連携の方法について十分に把握できていない現状がみられた。その結果、相互に関心や必要性は感じているものの、具体的な接点を持っていない状況が生じていると考えられる。

さらに、支援機関が実際に連携している団体は、対象分野別では「こころの病気全般」を対象とするものが多く、ピアサポーターが所属している患者・家族団体は7か所にとどまっていた。対象分野別にみると、高次脳機能障害、アルコール依存症、薬物依存症、認知症、発達障害、うつ病・躁うつ病であり、連携は一部の団体や分野に限られている現状が示された。また、質的調査や作業部会では、当事者・家族が自らの状況に応じて必要な情報を選択できる環境が十分に整っていないことが指摘された。加えて、インターネットによる個人での情報収集が一般化し、交通上の制約や対面での集まりを好まない人が増えていることから、従来型の参集を中心とした活動の維持が難しくなっているとの意見があった。さらに、団体間の情報連携が限定的であることや、地域ごとの団体やピアサポーターに関する基礎的な情報把握が進んでいない点も課題として挙げられた。

これらの結果から、今後は当事者・家族団体に関する情報を継続的に収集・更新し、情報を一元的に整理・共有する仕組みの構築が求められると考えられる。また、インターネットやSNS等の多様な媒体を活用した情報発信を強化することで、当事者・家族や支援機関が必要な情報にアクセスしやすい環境を整備することが重要である。こうした取組は、疾患を限定しない幅広いピアサポート活動の展開や、当事者・家族団体と支援機関との連携促進につながるものと示唆される。

(2) ピアサポーター活用の仕組みづくり・体制整備

量的調査の結果、当事者・家族団体における他団体との交流や連携の有無では、全体では6割が「あり」との回答だったが、団体別にみると、当事者団体では「なし」との回答が半数を超え、特に当事者団体間の連携がまだ十分に進んでいない実態が明らかとなった。また、支援機関においても、当事者・家族団体と連携している機関は2割にとどまっていた。その内訳をみると、市町村では一定の連携実績がみられる一方、医療機関や事業所においては連

携が進んでいない状況が窺われた。

こうした連携の進展を妨げている要因としては、ハード面およびソフト面の双方に課題が存在すると考えられる。

まず、ハード面の課題としては、連携の窓口整備、マッチングの仕組みの未整備、予算の確保、連携に関するルールづくりなどが挙げられる。窓口整備に関しては、事業所や医療機関側から「誰に、どのように連絡すればよいかわからない」といった声が聞かれ、連携の入り口が不明確であることが示された。一方、当事者・家族からは、保健師以外の支援者とのつながりが乏しく、医療機関等に対して自ら連携を依頼することに心理的なハードルを感じているケースが多いことが指摘された。

また、仕組みや予算確保の面では、ピアサポーターとして活動できる人材と、ピアサポーターを活用したい支援機関等をつなぐマッチングの仕組みが存在しないこと、連携のルールやノウハウが十分に蓄積されていないことが、実態調査および作業部会の双方から課題として挙げられた。加えて、当事者・家族団体からは、活動を継続するための安定した予算確保や、公的制度（補助金等）による支援を求める声も多く聞かれた。

次に、ソフト面の課題としては、人材育成やフォロー体制、活動に関する相談体制が十分に整っていない点が挙げられる。ピアサポートやピアサポーターの活動内容は多様かつ幅広いとされているが¹⁾、量的調査では、ピアサポーターを雇用している事業所は常勤・非常勤を含めて7事業所にとどまっており、実践の場が限られている現状が明らかとなった。

本県においては、令和7年度から障害者ピアサポーター養成研修が開始されたところであるが、調査では当事者・家族団体から取組の遅れを指摘する声もみられた。今後は、研修受講者の増加を図るとともに、修了後のフォローアップや継続的な人材育成を推進していくことが重要である。

さらに、連携の仕組みづくりや体制整備を検討するにあたっては、全ての当事者・家族が団体に所属しているわけではない点にも留意する必要がある。団体への所属の有無にかかわらず、当事者・家族が必要な時にピアサポーターと話すことができる機会を確保すること、また、ピアサポーターを育成・紹介する仕組みを整備することが、今後の連携促進に向けた重要な視点であると考えられる。

（3）精神疾患・精神障害の理解と誤解の低減に向けた啓発

質的調査（当事者・家族へのヒアリング）では、「ピアサポート活動を広げていくために必要なこと」として、ピアサポートそのものに関する啓発に加え、精神疾患や精神障害に対する社会的理解の促進が重要であるとの意見が多く挙げられた。また、作業部会においても、一般住民に限らず、医療機関や福祉サービス等の支援提供者に対する啓発の必要性が指摘された。

精神疾患や精神障害に対する誤解や偏見は依然として根強く存在しており、当事者自身がそれらを内面化してしまう場合も少なくない。例えば、「自分には就職する価値がない」と思い込んでしまうことで、社会との心理的・社会的距離が縮まらないままとなる状況が指摘されている²⁾。このような自己スティグマの存在は、当事者の社会参加や回復の過程に大きな影響を及ぼすと考えられる。

こうした誤解や偏見は、一般住民だけでなく、支援に関わる専門職や関係機関においても十分に解消されていない可能性がある。そのため、精神疾患や精神障害に関する正しい知識が共有されないまま、当事者・家族と支援者との間に認識のずれが生じ、結果として支援の利用やピアサポート活動の広がりが阻害されるおそれがある。加えて、啓発の内容や方法が

体系化されておらず、継続的・計画的な取組として実施されにくい点も課題として考えられる。

これらを踏まえると、支援者を含む地域で暮らす住民全体に対する啓発を、より一層推進していくことが重要であると考えられる。国立精神神経医療研究センター精神保健研究所では、スティグマ低減を目的とする知識教育として、精神疾患は回復可能であること、社会的包摂（誰もが地域生活を続けるために支援を受ける権利があること）、精神疾患の罹患率が高く誰もが経験しうるものであることを含めることが推奨されている³⁾。

今後は、こうした視点を踏まえ、ピアサポートの意義とあわせて、精神疾患や精神障害への理解を深める啓発を、様々な機会を通じて継続的に行っていくことが、誤解や偏見の低減、ひいてはピアサポート活動の普及・定着につながるものと示唆される。

（４）支援機関におけるピアサポーターとの連携促進

量的調査の結果、支援機関における「ピアサポーター」という用語の認知度は、当事者・家族に比べて低いことが明らかとなった。また、当事者・家族団体との連携に至らない理由として、団体に関する情報不足や、ピアサポートの効果に関する知識不足が挙げられていた。これらの結果から、支援機関においては、ピアサポートやピアサポーターに関する基本的な知識や効果、実際の活動内容について、十分に共有されていない現状が示された。

質的調査（支援機関対象）では、当事者・家族側において、保健師以外の支援者とのつながりが乏しく、医療機関等に対して自ら連携を依頼することに心理的なハードルを感じているケースが多いとの意見があった。また、精神医療関係者は一般に適切な知識を有していると考えられがちである一方、専門職ほど偏見が強い場合があるとの研究報告⁴⁾もあり、加えて、状態の悪い患者を多く診てきた経験から、意図せず偏見が強まってしまう可能性も指摘された。こうした背景により、当事者（家族を含む）と一定の距離を保つ形となり、結果として連携に至っていない状況が生じている可能性があると考えられる。

支援機関側の体制に関する課題も大きい。量的調査では、団体との連携に至らない理由として「連携する体制が整っていない」との回答が、市町村、医療機関、事業所のいずれにおいても半数以上を占めていた。さらに、質的調査では、行政機関において団体の担当分野が保健担当部署に偏り、福祉担当部署との連携が十分に図られていない縦割り構造の問題や、医療機関においては団体との連携の有効性を認識しながらも、日常業務に追われ、受入れ体制の構築まで手が回らない実情があるとの意見が示された。

今回、量的調査（支援機関対象）の回収率は、医療機関・事業所で約２割にとどまっており、本調査結果のみで支援機関全体の状況を十分に把握できたとは言い難いものの、団体との連携が進まない背景には、複合的な要因が存在することが示唆された。

これらを踏まえると、今後は、ピアサポート活動やピアサポーターに関する情報発信・情報提供を一層充実させるとともに、支援機関がピアサポートを活用しやすい仕組みづくりを進めていくことが重要であると考えられる。また、正しい知識やピアサポートの効果を学ぶ研修の充実、当事者視点を取り入れた理解促進の取組、さらには好事例の集積・発信を通じて、支援機関側の理解と実践を後押ししていくことが、今後の連携促進につながるものと示唆される。

2. まとめ

以上の考察から、課題と今後の取り組みの方向性を下記のとおり整理した。ピアサポート活動の推進には、どの項目においても分野横断的に取り組むことが必要である。

(1) 本県のピアサポート活動に係る7つの課題

- ① 当事者・家族団体の活動に関する情報提供・情報発信が不足している。
- ② 当事者・家族団体は継続的にピアサポート活動を行っている一方、当事者・家族団体の従来の運営・活動の継続が困難となっている
- ③ 当事者・家族団体と支援機関、団体間のいずれにおいても連携が限定的であり、交流の場・地域のネットワークづくりの整備が進んでいない。
- ④ 支援機関側において、当事者・家族団体の活動内容や連携方法、ピアサポートの効果に関する理解が十分でない
- ⑤ ピアサポーターを活用するための窓口、ルール、受入れ体制などが整備されていない
- ⑥ ピアサポーターの養成、フォローアップ、活動相談等の人材育成・支援体制が整っていない
- ⑦ 精神疾患・精神障害に対する誤解や偏見が根強く、当事者自身の自己スティグマや、支援者側の無意識の偏見が連携の障壁となっている

(2) 今後の取り組みの方向性（7項目）

- ① 当事者・家族団体に関する情報の継続的な情報の収集と一元化した情報発信
- ② インターネットやSNS等の多様な媒体を活用し、当事者・家族、支援機関の双方に向けた情報発信の強化と紹介できる仕組みづくり
- ③ 時代に合った当事者・家族団体の活動への支援の拡充
- ④ 当事者・家族が早期から疾患や障害の知識が得られる機会を増やす
- ⑤ 一般住民に加え、医療機関や福祉サービス等の支援提供者を対象とした啓発の強化
- ⑥ ピアサポーター養成研修の受講促進とともに、修了後のフォローアップや継続的な人材育成を推進
- ⑦ ピアサポーターの活動支援と活用体制等の整備、ピアサポートやピアサポーターの役割、効果、具体的な活用事例等を分かりやすい情報提供

(3) 今後の具体的取り組み内容と連携推進体制

今後の具体的取り組み内容、連携推進体制を以下のとおりまとめる。

ピアサポート活動の推進は当事者・家族はもとより、県だけではなく、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築の推進の担い手である、地域住民、市町村、精神科医療機関・障害福祉サービス事業所、職能団体等が連携して推進する体制が求められる。

図表 81

7つの方向性	連携推進体制
<p>① 当事者・家族団体に関する継続的な情報収集と一元化した情報発信</p>	
<p>② インターネットや SNS 等の多様な媒体を活用し、当事者・家族、支援機関の双方に向けた情報発信の強化と紹介できる仕組みづくり</p>	
<p>③ 時代に合った当事者・家族団体の活動支援の拡充</p>	
<p>④ 当事者・家族が早期から疾患や障害の知識が得られる機会を増やす</p>	
<p>⑤ 一般住民に加え、医療機関や福祉サービス等の支援提供者を対象とした啓発の強化</p>	
<p>⑥ ピアサポーター養成研修の受講促進とともに、修了後のフォローアップや継続的な人材育成の推進</p>	
<p>⑦ ピアサポーターの活動支援と活用体制等の整備、ピアサポートやピアサポーターの役割、効果、具体的な活用事例等、分かりやすい情報提供</p>	

図表 82

	具体的な主体先
県	関係庁内課室、保健福祉事務所（支所）・地域事務所、精神保健福祉センター
市町村	県内市町村
医療	精神科医療機関
福祉 介護	基幹相談支援センター、障害福祉サービス事業所全般 地域包括支援センター、高齢福祉サービス事業所全般
教育	小中学校、高等学校、大学等
職能	医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、日本精神科看護協会、精神保健福祉士協会、社会福祉士会、公認心理士・臨床心理士協会、精神保健福祉協会
産業 保健	産業保健総合支援センター・その他産業保健関係者
企業	一般企業全般
司法	保護観察所・その他司法関係機関
団体	当事者、家族団体
住民	地域住民

(4) 本調査の限界について

本調査は、量的・質的調査ともに回答数が少なく、当事者・家族団体の活動実態や支援機関との連携に関する課題を十分に把握するには至らなかった。しかしながら、ピアサポート活動に関する課題および今後の方針については、実態と大きく乖離するものではないと考えられる。

今後は、本調査結果を手掛かりとしつつ、継続的な実態調査を実施していく必要がある。また、支援機関に対してもヒアリング調査を行い、率直な意見を収集することで、より多面的な分析を進めていきたい。

おわりに

ピアサポート活動を一層推進していくためには、情報提供体制の充実、当事者・家族団体の活動への支援、関係者間の交流の促進、人材育成など、多面的な取組を継続的に進めていくことが重要である。今後は、関係機関・団体との連携を一層強化し、本調査で得られた知見を踏まえながら、施策の具体化に向けた検討を進めていくことが求められる。

本調査および作業部会の実施にあたり、御協力をいただいた当事者・家族の皆様、支援機関の皆様ならびに精神障害部会構成員の皆様に、心より感謝申し上げます。

<参考文献>

- 1) 精神障害者ピアサポート専門員養成のためのテキストガイド第3版
- 2) 山中まりあ・森永康子・古川善也. 精神障害者に対する偏見の研究—認知・感情・社会的距離に着目して—. 広島大学心理学研究 第 17 号 2017
- 3) 国立精神神経医療研究センター精神保健研究所スティグマについて
<https://www.ncnp.go.jp/nimh/chiiki/about/stigma.html#3> 2025.12.10 参照
- 4) 櫻井友実・橋本健志・四本かやの「日本における精神障害者に対する偏見の文献検討」
作業療法 第 39 巻 2020

卷末資料

当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査実施要領

1 目的

宮城県では、精神障害の有無や程度にかかわらず誰もが、安心して自分らしく暮らすことができるよう、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム（以下「にも包括」という。）」の構築を推進している。にも包括の構築には、当事者・家族の意思や選択が尊重されることやピアサポートの活用推進が重要とされている。

よって、当事者・家族団体（以下、「団体」という。）の活動状況や、支援機関との連携状況等を把握し、今後のピアサポート活用推進に向けた検討の基礎資料とするため本調査を実施する。

2 実施主体

宮城県精神保健福祉センター

3 調査対象

(1) 量的調査

- イ 宮城県内の当事者・家族団体
- ロ 宮城県内の支援機関（市町村、各精神科医療機関、障害福祉サービス事業所）
※詳細は別添一覧のとおり

(2) 質的調査

- イ 宮城県自立支援協議会精神障害部会（以下「精神障害部会」という。）構成員
- ロ 精神障害部会ピアサポート活用に係る作業部会（以下「作業部会」という。）構成員
- ハ その他

4 調査内容

(1) 量的調査

- イ 当事者・家族団体向け調査
 - ・団体の基本情報、運営概要、活動内容、相談対応、他団体との連携状況等
 - ・ピアサポーターの活動に関すること
- ロ 支援機関（市町村・医療機関・障害福祉サービス事業所）向け調査
 - ・ピアサポート活動を行っている団体との連協状況、連携によるプラスの効果等
 - ・ピアサポーターの活動に関すること

(2) 質的調査

ピアサポート活動で得られる効果や活用推進に必要な取組み等について調査する。詳細は宮城県精神保健福祉センターにおいて、量的調査の結果を踏まえ別途定める。

5 調査実施期間

(1) 量的調査

令和6年10月7日（月）から令和6年11月8日（金）まで

(2) 質的調査

令和6年10月下旬から令和6年11月（予定）

6 調査実施方法

(1) 量的調査

原則、Webサイト（みやぎ電子申請サービス）にて、下記 URL 又は QR コードにより令和6年11月8日（金）までに回答する。Webサイトでの回答が難しい場合は、回答者からの申し出により、宮城県精神保健福祉センターから調査用紙を送付する。

イ 当事者・家族団体向け調査

<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1721630570352>

申し込み用 QR コード⇒



ロ 支援機関（市町村）向け調査

<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1725599763643>

申し込み用 QR コード⇒



ハ 支援機関（精神科医療機関）向け調査

<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1727948187017>

申し込み用 QR コード⇒



ニ 支援機関（障害福祉サービス事業所）向け調査

<https://www.shinsei.elg-front.jp/miyagi2/uketsuke/form.do?id=1727948244227>

申し込み用 QR コード⇒



(2) 質的調査

ヒアリングやWebサイト（宮城電子申請サービス）等により実施する。詳細は宮城県精神保健福祉センターにおいて別途定める。

7 調査結果について

調査結果は、作業部会（令和6年11月から令和7年1月実施予定）で分析し、ピアサポート活用推進の方向性や必要な取組みについてまとめ、精神障害部会（令和7年2月実施予定）へ報告する。

また、本調査で得られた団体の情報は、本県ホームページ等により公表する（同意を得られた団体に限る。）。

8 その他

この要領に定めるもののほか、本調査に必要な事項は、宮城県精神保健福祉センター所長が定める。

9 問合せ先

宮城県精神保健福祉センター 企画・地域支援班 担当：笠原

電話：0229-23-0021 電子メール：seihosk@pref.miyagi.lg.jp

【量的調査票（当事者・家族団体）】

みやぎ電子申請サービス

サービストップへ

文字 大 中 小 色 標準 黒 青 黄

回答内容入力



回答内容確認



回答完了

【調査】令和6年度当事者・家族団体の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査 ～当事者・家族団体向け～

[ヘルプ](#)

回答内容の入力

操作方法のご説明

下記の入力フォームに必要な事項を入力した後、「回答内容の確認に進む」ボタンを押してください。
途中まで入力した内容を一時保存したい場合、「回答内容を一時保存する」ボタンを押してください。

注意事項

必須 マークがある項目は、必ず入力してください。

機種依存文字（半角カナ、丸付き数字、ローマ数字、「崎」など）は使用しないでください。機種依存文字が入力されている場合はエラーになります。

本調査は、県内の当事者・家族団体（以下、「団体」という。）を対象に、団体の活動状況、及びメンタルヘルスに関するピアサポート活動状況と、支援者との連携状況を把握することを目的としております。

つきましては、ご多忙のところ大変恐縮ですが、回答くださいますようお願いいたします。

※ご回答いただいた内容は、集計分析を行い、本県のピアサポート活動を考える上での基礎資料とします。

また、公表に同意いただきました団体の基本情報や活動状況については、後日とりまとめて情報提供をさせていただきます予定であります。

※11月8日（金）までにご回答くださいますようお願いいたします。

※本調査に関するお問い合わせ先

宮城県精神保健福祉センター 企画・地域支援班

電話：0229-23-0021 FAX：0229-23-0388

E-mail：seihosk@pref.miyagi.lg.jp

この調査では、「ピア」「ピアサポート」「ピアサポーター」を下記のように定義してお聞きしております。

●ピア●

「対等・同等・仲間」を意味します。

●ピアサポート●

仲間同士の支え合い。何かしらの共通の経験、もしくは近い困難な経験があり、その経験を活かしながら仲間としてサポートすること。ピアサポート活動は、その活動とします。

●ピアサポーター●

対価(雇用もしくは謝金等)を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

回答内容を一時保存する

回答内容の確認に進む

問1. 貴団体の基本情報について教えてください。※すべての内容をご記入ください。

問1. (1) 団体名

必須

問1. (2-1) 代表者職名	<input type="text"/>
問1. (2-2) 代表者氏名 必須	<input type="text"/>
問1. (3-1) 事務局担当者職名	<input type="text"/>
問1. (3-2) 事務局担当者氏名	<input type="text"/>
問1. (4-1) 郵便番号 必須	<input type="text" value="〒"/>
問1. (4-2) 住所 必須	<input type="text"/>
問1. (5) 電話番号 必須	<input type="text"/>
問1. (6) FAX	<input type="text"/>
問1. (7) メールアドレス	<input type="text"/>
問1. (8) ホームページURL	<input type="text"/>

問2. 貴団体の運営概要について教えてください。※当てはまるものを選択、または内容をご記入ください。

問2. (1) 対象分野 必須	<p>活動の主な対象分野を選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。</p> <p> <input type="radio"/> こころの病気全般 <input type="radio"/> 統合失調症 <input type="radio"/> うつ病・躁うつ病 <input type="radio"/> 認知症 <input type="radio"/> 児童・思春期のメンタルヘルス <input type="radio"/> 発達障害 <input type="radio"/> アルコール依存症 <input type="radio"/> 薬物依存症 <input type="radio"/> ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む） <input type="radio"/> PTSD <input type="radio"/> 高次脳機能障害 <input type="radio"/> 摂食障害 <input type="radio"/> てんかん <input type="radio"/> ひきこもり <input type="radio"/> 自死遺族 <input type="radio"/> その他 </p> <p>「その他」を選択した場合に入力してください。 「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。</p>
--------------------	---

当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。

公益社団法人 NPO法人 任意団体 その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2. (2) 団体種別

必須

問2. (3) 会員数

令和6年10月1日時点での会員数をご記入ください。

人

会員の主な年齢層を2つまで選択ください。

20歳未満

20～30歳

30～40歳

40～50歳

50～60歳

60～70歳

70～80歳

80歳以上

問2. (4) 主年齢層

必須

問2. (5) 設立年月

設立年月日について、和暦を選択の上、ご記入ください。

年

月

問2. (6) 会費について

必須

会費について、「会費あり」または「会費なし」のいずれかを選択ください。

会費あり 会費なし

主な活動の資金源について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。複数回答可能

補助金や助成金 会費の収入 寄附金 その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2. (7) 主な活動の資金源

必須

問2. (8) 団体の周知方法

必須

団体の周知方法について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。複数回答可能

団体のホームページ掲載

市町村広報の活用

各関係機関へチラシ設置や配布依頼

SNS (Instagram、X、Facebook、LINE、YouTube、TikTok)

口コミ

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

運営の課題について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。複数回答可能複数回答可能

周知活動

活動資金の確保

活動場所の確保

新規会員の確保

後継者育成

その他

問2. (9) 運営の課題

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問3. 貴団体の活動について教えてください。※当てはまるものを選択、または内容をご記入ください。

問3. (1-1) 活動日

必須

定例または不定期のいずれかを選択ください。

定例

不定期

問3. (1-2) 活動日

必須

定例の場合、開催頻度・曜日、時間帯をご記入ください。

不定期の場合、開催状況をご記入ください。

問3. (2) 主な活動場所

必須

会場名をご記入ください。例) ○○公民館、○○病院内

問3. (3) 活動内容

必須

活動内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容を入力してください。複数回答可能

※相談対応にチェックした方は、必ず問3. (4-1)の相談への対応方法をご記入ください。

広報活動（チラシや広報、通信発行等）

ミーティングの開催（当事者同士の語り合い等）

相談対応

メンバー同士での勉強会等

地域との交流・ボランティア活動

講演活動（研修会でのリハビリ体験談の発表等）

- フォーラムやセミナー等、啓発イベントの実施
- 行政への協力（会議の委員就任等）
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

当事者や家族、関係機関からの相談にどのように対応しているか、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※問3.(3)において、相談対応を選択された方は相談への対応方法を必ず回答ください。

- 電話
- FAX
- メール
- SNS（Instagram、X、Facebook、LINE、YouTube、TikTok）
- 対面（訪問・面接）
- 個別相談は受けていない
- その他

問3. (4-1) 相談への対応

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※相談対応方法を選択した方→問3. (4-2)へ 相談は受けていないを選択した方→問3. (5-1)へ

問3. (4-1) において、相談対応されている団体へ伺います。

相談対応が可能な曜日・時間帯について、ご記入ください。

※連絡先が問1の基本情報と異なる場合、下記に追記ください。（電話番号・メールアドレス・アカウント名）

問3. (4-2) 相談への対応（連絡先）

曜日・時間帯、電話番号、メールアドレス・アカウント名等

問3. (5-1) 当事者・家族同士、団体同士の交流や連携の有無

必須

当事者・家族同士、団体の交流や連携について、有または無のいずれかを選択ください。

- 有
- 無

【有】とご回答の方→問3. (5-2)へ 【無】とご回答の方→問3. (6-1)へ

問3. (5-1)において、有と回答された方へ伺います。

交流や連携を行っている「団体名」と「内容」を下記にご記入ください。

問3. (5-2) 当事者・家族同士、団体同士の交流や連携の有無

団体名、内容

活動に困った時の相談先はありますか。有または無のいずれかを選択ください。

問3. (6-1) 困ったときの相談先

必須

- 有
- 無

【有】とご回答の方→問3. (6-2)へ 【無】とご回答の方→問4へ

問3. (6-1)において、有と回答された方へ伺います。
困ったときの相談先を下記にご記入ください。

問3. (6-2) 困ったときの
相談先

他の当事者・家族団体、関係機関への活動PRをお願いします。
※自由記載

問4. 活動PR
必須

問5. リスト一覧や情報共有
必須

問1～問4の回答内容を、当事者・家族団体リスト一覧への掲載（ホームページ公表）や当事者・家族団体及び関係機関（自治体・医療機関・障害福祉サービス事業所等）との情報共有に使用することに同意しますか。
「同意する」または「同意しない」のいずれかを選択ください。

同意する 同意しない

問6. 案内の送付について
必須

県主催の事業説明会や補助金の案内等、ピアサポートの活用に係る事業に関するご案内の送付を希望しますか。
「希望する」または「希望しない」のいずれかを選択ください。

希望する 希望しない

問7. 行政へ期待すること
必須

今後、ピアサポート活動の推進に関して行政へ期待することを教えてください。当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場、ネットワークづくり
- 当事者・家族団体活動に関する情報提供
- ピアサポート活動についての運営費用等に関する補助制度の充実
- ピアサポート活動に関する研修会やコンサルテーション等の支援事業の実施（コンサルテーションとは、専門家の助言をもらうこと）
- 地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信
- 地域住民へ精神疾患・精神障害に関する情報発信
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

～～～ここからは、貴団体の会員のピアサポーターとしての活動について、伺います。～～～

問8. ピアサポーターについて
必須

ピアサポーターという用語を知っていましたか。該当する項目を選択ください。
ピアサポーター：対価（もしくは謝金等）を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

知っていた 聞いたことはあるがよくわからない 知らない

問9. ピアサポーターの活動

必須

貴団体の会員にピアサポーターとして活動している方はいらっしゃいますか。該当する項目を選択ください。

いる いない

【いる】とご回答の方→問10-1へ 【いない】とご回答の方→問11へ

問10-1. ピアサポーターの人数

問9で【いる】と回答した方に伺います。ピアサポーターの人数を教えてください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

問10-2. 連絡先

問10-1で回答いただいた方について、今後改めて詳しくお話を伺わせていただく場合がございます。それについて、ご承知いただける場合は、下記にご連絡先をご記入ください。

※ご対応が可能な曜日・時間帯をご記入ください。

※ご連絡先が問1の基本情報と異なる場合、追記ください。（担当者名・電話番号・メールアドレス）

問11. ご意見・ご要望

ピアサポート活動の推進に関するご意見・ご要望をご記入ください。

以上で終了となります。

お忙しいところ、アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

お問い合わせ

【宮城県精神保健福祉センター】

企画・地域支援班

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭五丁目7-20

TEL : 0229-23-0021 FAX : 0229-23-0388

E-mail : seihosk@pref.miyagi.lg.jp

[回答内容を一時保存する](#)

[回答内容の確認に進む](#)

ご利用にあたり

[サイトマップ](#)

[↑
ページの
先頭へ](#)

文字 大 中 小 色 標準 黒 青 黄

回答内容入力



回答内容確認



回答完了

【調査】令和6年度当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査について～支援機関（行政機関）向け～

[ヘルプ](#)

回答内容の入力

操作方法のご説明

下記の入力フォームに必要な事項を入力した後、「回答内容の確認に進む」ボタンを押してください。

途中まで入力した内容を一時保存したい場合、「回答内容を一時保存する」ボタンを押してください。

注意事項

必須 マークがある項目は、必ず入力してください。

機種依存文字（半角カナ、丸付き数字、ローマ数字、「崎」など）は使用しないでください。機種依存文字が入力されている場合はエラーになります。

本県では、ピアサポート活動に関する活動状況や現状、当事者・家族団体（以下、「団体」という。）と各支援機関との連携状況を把握することを目的として本調査を実施いたします。本調査は、広くメンタルヘルス全般に関する活動を行っている団体（こころの病気全般、ひきこもり、依存症、自死遺族、高次脳機能障害等を含む活動団体）を対象とします。

つきましては、今後の取組の参考にさせていただくため、皆様のご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

調査結果は、本県のピアサポート活動を考える上での基礎資料とさせていただきます。

※11月8日（金）までにご回答くださいますようお願いいたします。

この調査では、「ピア」「ピアサポート」「ピアサポーター」を下記のように定義してお聞きしております。

●ピア●

「対等・同等・仲間」を意味します。

●ピアサポート●

仲間同士の支え合い。何かしらの共通の経験、もしくは近い困難な経験があり、その経験を活かしながら仲間としてサポートすること。ピアサポート活動は、その活動とします。

●ピアサポーター●

対価(雇用もしくは謝金等)を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

回答内容を一時保存する

回答内容の確認に進む

【行政機関】回答者の基本情報について教えてください。※各項目について、ご記入ください。

市町村名

必須

所属課・係名

必須

例) ○○部○○課○○係

役職

必須

例) 課長・課長補佐・係長・主任・主事等

氏名 必須	<input type="text"/>
郵便番号 必須	<input type="text" value="〒"/>
住所 必須	<input type="text"/>
電話番号 必須	<input type="text"/>
F A X 必須	<input type="text"/>
メールアドレス 必須	<input type="text"/>

～～～ピアサポート活動を行っている団体との連携について教えてください。～～～
具体的な連携内容は問2をご参照ください。

問1.過去3年以内の連携 について 必須	<p>貴所属が担当する地域で、過去3年以内に連携している（又はしたことがある）団体はありますか。 「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p>【はい】とご回答の方→問2-1へ 【いいえ】とご回答の方→問4へ</p>
----------------------------	---

問2-1. 連携している団体 数	<p>問1で「はい」と回答した方に伺います。 連携している団体数を記入してください。</p> <p><input type="text" value="団体"/></p>
---------------------	---

問2-2-1.団体名（1団体 目）	<p>団体名を教えてください。</p> <p>1団体目 <input type="text"/></p>
----------------------	--

問2-2-1. 活動分野	<p>団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。 ※主なものを1つ選択ください。 当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。</p> <p><input type="radio"/> こころの病気全般</p> <p><input type="radio"/> 統合失調症</p> <p><input type="radio"/> うつ病・躁うつ病</p> <p><input type="radio"/> 認知症</p> <p><input type="radio"/> 児童・思春期のメンタルヘルス</p> <p><input type="radio"/> 発達障害</p> <p><input type="radio"/> アルコール依存症</p> <p><input type="radio"/> 薬物依存症</p> <p><input type="radio"/> ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）</p> <p><input type="radio"/> PTSD</p> <p><input type="radio"/> 高次脳機能障害</p> <p><input type="radio"/> 摂食障害</p> <p><input type="radio"/> てんかん</p>
--------------	---

- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

問2-2-1.連携内容 (1)

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

問2-2-1.連携内容 (2)

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-1.謝金の対応

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- 全て謝金なし
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.団体名（2団体目）

団体名を教えてください。

2団体目

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。

※主なものを1つ選択ください。

当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

問2-2-2. 活動分野

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症
- ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）
- PTSD
- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.連携内容（1）

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

問2-2-2.連携内容 (2)

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- 全て謝金なし
- その他

問2-2-2.謝金の対応

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.団体名 (3団体目)

団体名を教えてください。

3団体目

問2-2-3. 活動分野

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。
※主なものを1つ選択ください。
当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症
- ギャンブル依存症 (インターネットやゲーム依存も含む)
- PTSD

- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

問2-2-3.連携内容（1）

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

問2-2-3.連携内容（2）

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.謝金の対応

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣

全て謝金なし

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

上記以外に、当事者・家族「個人」と連携している内容がありましたらご記入ください。

問3.当事者・家族「個人」
との連携

問1で「いいえ」と回答した場合、連携に至らない理由について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

当事者・家族団体の情報の入手先がわからないため

業務多忙等により情報収集に取組めないため

連携するノウハウがない（当事者・家族団体活用の準備やフォロー体制）

連携する体制が整っていない（組織体制、予算、協働に係るルールづくり）

現時点では、連携する必要性を感じていない

その他

問4.連携に至らない理由

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

当事者・家族にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

悩みを共感し合うことで、不安や孤独感が軽減される。

他の当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。

病気や障害に関する理解を深めることができる。

困りごとの解決のために情報収集することができる。

社会とのつながりを持つことができる。

ピアサポートを提供する当事者の自尊心が向上し、リカバリーが促進される。

その他

問5-1. 連携によるプラス
の効果（当事者・家族にと
って）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

一般住民にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択してください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害に関する理解を深めることができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- その他

問5-2. 連携することによる
プラスの効果（一般住民
の視点）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

貴所属にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択してください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- 当事者・家族の視点に立って業務・事業運営ができる。
- スタッフ自身のスキル向上ややりがいにつながる。
- その他

問5-3. 連携することによる
プラスの効果（支援機関
の視点）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

今後、ピアサポート活動の推進に関して行政へ期待として、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※行政の方については、今後求められていると感じていることについて選択願います。

- 当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場、ネットワークづくり
- 当事者・家族団体活動に関する情報提供
- ピアサポート活動についての運営費用等に関する補助制度の充実
- ピアサポート活動に関する研修会やコンサルテーション等の支援事業の実施
- 地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信
- 地域住民へメンタルヘルスに関する情報発信
- その他

問6. 行政へ期待すること

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

～～～ここからは、貴所属におけるピアサポーターの活動について、伺います。～～～

問7. ピアサポーターについて
必須

- ピアサポーターという用語を知っていましたか。該当する項目を選択ください。
※ピアサポーター：対価（雇用もしくは謝金等）を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。
- 知っていた
 聞いたことはあるがよくわからない
 知らなかった

問8. ピアサポーターとしての活動
必須

- 貴所属では、ピアサポーターとして活動されている当事者・家族の方はいますか。「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。
- はい
 いいえ
- 【はい】とご回答の方→問9へ 【いいえ】とご回答の方→問11へ

問9. 活動人数

問8で「はい」と回答した方に伺います。
貴所属で、ピアサポーターとして活動されている方の人数を教えてください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

人

問10-1. 雇用状況

- 問9. で人数を回答された方に伺います。
貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の雇用状況について、該当する項目いずれかを選択ください。
- ピアサポーターとして雇用している（常勤）
 ピアサポーターとして雇用している（非常勤・パートタイム労働者）

問10-2. 雇用状況

問10-1. を回答された方に伺います。
貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の人数をご記入ください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

常勤（ 人）、非常勤・パートタイム労働者（ 人）

問10-3. 連絡先

問10-2. で回答いただいた方について、今後改めて詳しくお話を伺わせていただく場合がございます。それについて、ご承知いただける場合は、下記にご連絡先をご記入ください。
※ご対応が可能な曜日・時間帯をご記入ください。
※ご連絡先が基本情報と異なる場合、追記ください。（担当者・電話番号・メールアドレス）

1 対応可能な曜日・時間帯、2 担当者名、3 電話番号、4 メールアドレス

～～～その他、今後の取り組みについて、ご意見等を教えてください。～～～

問11. ご意見・ご要望等

今後の、ピアサポート活動の推進に関して、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

以上で終了となります。
お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

お問い合わせ

【宮城県精神保健福祉センター】

企画・地域支援班

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭五丁目7-20

TEL : 0229-23-0021 FAX : 0229-23-0388

E-mail : seihosk@pref.miyagi.lg.jp

[回答内容を一時保存する](#)

[回答内容の確認に進む](#)

ご利用にあたり

[サイトマップ](#)

[↑
ページの
先頭へ](#)

Copyright © 2020 みやぎ電子申請サービス. All Rights Reserved.

文字 **大** 中 小 色 標準 黒 青 黄

回答内容入力



回答内容確認



回答完了

【調査】令和6年度当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査について～支援機関（障害福祉サービス事業所）向け～

[ヘルプ](#)

回答内容の入力

操作方法のご説明

下記の入力フォームに必要な事項を入力した後、「回答内容の確認に進む」ボタンを押してください。
途中まで入力した内容を一時保存したい場合、「回答内容を一時保存する」ボタンを押してください。

注意事項

必須 マークがある項目は、必ず入力してください。

機種依存文字（半角カナ、丸付き数字、ローマ数字、「崎」など）は使用しないでください。機種依存文字が入力されている場合はエラーになります。

本県では、ピアサポート活動に関する活動状況や現状、当事者・家族団体（以下、「団体」という。）と各支援機関との連携状況を把握することを目的として本調査を実施いたします。本調査は、広くメンタルヘルス全般に関する活動を行っている団体（こころの病気全般、ひきこもり、依存症、自死遺族、高次脳機能障害等を含む活動団体）を対象とします。

つきましては、今後の取組の参考にさせていただくため、皆様のご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

調査結果は、本県のピアサポート活動を考える上での基礎資料とさせていただきます。

※11月8日（金）までにご回答くださいますようお願いいたします。

この調査では、「ピア」「ピアサポート」「ピアサポーター」を下記のように定義してお聞きしております。

●ピア●

「対等・同等・仲間」を意味します。

●ピアサポート●

仲間同士の支え合い。何かしらの共通の経験、もしくは近い困難な経験があり、その経験を活かしながら仲間としてサポートすること。ピアサポート活動は、その活動とします。

●ピアサポーター●

対価(雇用もしくは謝金等)を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

回答内容を一時保存する

回答内容の確認に進む

【障害福祉サービス事業所】回答者の基本情報について教えてください。※各項目について、ご記入ください。

事業所名

必須

サービス種類

必須

当てはまるものすべてをご記入ください。複数回答可能
※当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。

- 基幹相談支援センター
 計画相談支援
 相談支援事業
 自立訓練

- 宿泊型自立訓練
- 共同生活援助
- 自立生活援助
- 地域活動支援センター
- 生活介護
- 就労移行支援
- 就労定着支援
- 就労継続支援A型
- 就労継続支援B型
- 障害者就業・生活支援センター
- 地域移行
- 地域定着
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

通常の事業実施地域

必須

事業実施対象としている主な市町村名・行政区をご記入ください。

例) 仙台市泉区、大崎市古川旭

役職

必須

例) 管理者・サービス管理責任者・相談支援専門員

氏名

必須

郵便番号

必須

住所

必須

電話番号

必須

F A X

必須

メールアドレス

必須

～～～ピアサポート活動を行っている団体との連携について教えてください。～～～
具体的な連携内容は問2をご参照ください。

問1.過去3年以内の連携
について

必須

貴所属が担当する地域で、過去3年以内に連携している（又はしたことがある）団体はありますか。
「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。

- はい
 いいえ

【はい】とご回答の方→問2-1へ 【いいえ】とご回答の方→問4へ

問2-1. 連携している団体数

問1で「はい」と回答した方に伺います。
連携している団体数を記入してください。

問2-2-1. 団体名 (1団体目)

団体名を教えてください。

1団体目

問2-2-1. 活動分野

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。

※主なものを1つ選択ください。

当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

- こころの病気全般
 統合失調症
 うつ病・躁うつ病
 認知症
 児童・思春期のメンタルヘルス
 発達障害
 アルコール依存症
 薬物依存症
 ギャンブル依存症 (インターネットやゲーム依存も含む)
 PTSD
 高次脳機能障害
 摂食障害
 てんかん
 ひきこもり
 自死遺族
 その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-1. 連携内容 (1)

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
 社会資源等の情報提供
 新規利用や見学の相談
 講師・委員等派遣依頼
 ミーティング・勉強会への参加
 活動運営に係る相談対応
 相談業務の委託
 その他

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

問2-2-1.連携内容（2）

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- 全て謝金なし
- その他

問2-2-1.謝金の対応

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.団体名（2団体目）

団体名を教えてください。

2団体目

問2-2-2. 活動分野

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。

※主なものを1つ選択ください。

当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症

- ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）
- PTSD
- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

問2-2-2.連携内容（1）

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

問2-2-2.連携内容（2）

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.謝金の対応

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任

- 相談員の派遣
- 全て謝金なし
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.団体名（3団体目）

団体名を教えてください。

3団体目

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。

※主なものを1つ選択ください。

当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症
- ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）
- PTSD
- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

問2-2-3. 活動分野

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.連携内容（1）

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応

相談業務の委託

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

活動等に関する情報提供

研修会や講演会等での講師対応

会議等での委員就任

相談員の派遣

その他

問2-2-3.連携内容 (2)

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

研修会や講演会等での講師対応

会議等での委員就任

相談員の派遣

全て謝金なし

その他

問2-2-3.謝金の対応

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

上記以外に、当事者・家族「個人」と連携している内容がありましたらご記入ください。

問3.当事者・家族「個人」
との連携

問4.連携に至らない理由

問1で「いいえ」と回答した場合、連携に至らない理由について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

当事者・家族団体の情報の入手先がわからないため

業務多忙等により情報収集に取組めないため

連携するノウハウがない（当事者・家族団体活用の準備やフォロー体制）

連携する体制が整っていない（組織体制、予算、協働に係るルールづくり）

- 現時点では、連携する必要性を感じていない
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

当事者・家族にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 悩みを共感し合うことで、不安や孤独感が軽減される。
- 他の当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害に関する理解を深めることができる。
- 困りごとの解決のために情報収集することができる。
- 社会とのつながりを持つことができる。
- ピアサポートを提供する当事者の自尊心が向上し、リカバリーが促進される。
- その他

問5-1. 連携によるプラスの効果（当事者・家族にとって）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

一般住民にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害に関する理解を深めることができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- その他

問5-2. 連携することによるプラスの効果（一般住民の視点）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

問5-3. 連携することによるプラスの効果（支援機関の視点）

必須

貴所属にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- 当事者・家族の視点に立って業務・事業運営ができる。

スタッフ自身のスキル向上ややりがいにつながる。

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

今後、ピアサポート活動の推進に関して行政へ期待として、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※行政の方については、今後求められていると感じていることについて選択願います。

当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場、ネットワークづくり

当事者・家族団体活動に関する情報提供

ピアサポート活動についての運営費用等に関する補助制度の充実

ピアサポート活動に関する研修会やコンサルテーション等の支援事業の実施

地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信

地域住民へメンタルヘルスに関する情報発信

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問6. 行政へ期待すること

必須

〜〜〜ここからは、貴所属におけるピアサポーターの活動について、伺います。〜〜〜

ピアサポーターという用語を知っていましたか。該当する項目を選択ください。

※ピアサポーター：対価（雇用もしくは謝金等）を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

知っていた

聞いたことはあるがよくわからない

知らなかった

問7. ピアサポーターについて

必須

貴所属では、ピアサポーターとして活動されている当事者・家族の方はいますか。「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。

はい

いいえ

【はい】とご回答の方→問9へ 【いいえ】とご回答の方→問11へ

問8. ピアサポーターとしての活動

必須

問8で「はい」と回答した方に伺います。

貴所属で、ピアサポーターとして活動されている方の人数を教えてください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

問9. 活動人数

人

問10-1. 雇用状況

問9. で人数を回答された方に伺います。

貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の雇用状況について、該当する項目いずれかを選択ください。

- ピアサポーターとして雇用している（常勤）
 ピアサポーターとして雇用している（非常勤・パートタイム労働者）

問10-1. を回答された方に伺います。
問10-2. 雇用状況
貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の人数をご記入ください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

常勤（ 人）、非常勤・パートタイム労働者（ 人）

問10-2. で回答いただいた方について、今後改めて詳しくお話を伺わせていただく場合がございます。それについて、ご承知いただける場合は、下記にご連絡先をご記入ください。
※ご対応が可能な曜日・時間帯をご記入ください。
※ご連絡先が基本情報と異なる場合、追記ください。（担当者・電話番号・メールアドレス）

問10-3. 連絡先

1 ご対応可能な曜日・時間帯、2 担当者名、3 電話番号、4 メールアドレス

～～～その他、今後の取り組みについて、ご意見等を教えてください。～～～

今後の、ピアサポート活動の推進に関して、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

問11. ご意見・ご要望等

以上で終了となります。
お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

お問い合わせ

【宮城県精神保健福祉センター】

企画・地域支援班

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭五丁目7-20

TEL : 0229-23-0021 FAX : 0229-23-0388

E-mail : seihosk@pref.miyagi.lg.jp

[回答内容を一時保存する](#)

[回答内容の確認に進む](#)

ご利用にあたり

[サイトマップ](#)

[↑
ページの
先頭へ](#)

文字 **大** 中 小 色 標準 黒 青 黄

回答内容入力



回答内容確認



回答完了

【調査】令和6年度当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査について～支援機関（医療機関）向け～

[ヘルプ](#)

回答内容の入力

操作方法のご説明

下記の入力フォームに必要な事項を入力した後、「回答内容の確認に進む」ボタンを押してください。
途中まで入力した内容を一時保存したい場合、「回答内容を一時保存する」ボタンを押してください。

注意事項

必須 マークがある項目は、必ず入力してください。

機種依存文字（半角カナ、丸付き数字、ローマ数字、「崎」など）は使用しないでください。機種依存文字が入力されている場合はエラーになります。

本県では、ピアサポート活動に関する活動状況や現状、当事者・家族団体（以下、「団体」という。）と各支援機関との連携状況を把握することを目的として本調査を実施いたします。本調査は、広くメンタルヘルス全般に関する活動を行っている団体（こころの病気全般、ひきこもり、依存症、自死遺族、高次脳機能障害等を含む活動団体）を対象とします。

つきましては、今後の取組の参考にさせていただくため、皆様のご意見をお聞かせくださいますようお願いいたします。

調査結果は、本県のピアサポート活動を考える上での基礎資料とさせていただきます。

※11月8日（金）までにご回答くださいますようお願いいたします。

この調査では、「ピア」「ピアサポート」「ピアサポーター」を下記のように定義してお聞きしております。

●ピア●

「対等・同等・仲間」を意味します。

●ピアサポート●

仲間同士の支え合い。何かしらの共通の経験、もしくは近い困難な経験があり、その経験を活かしながら仲間としてサポートすること。ピアサポート活動は、その活動とします。

●ピアサポーター●

対価(雇用もしくは謝金等)を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。

回答内容を一時保存する

回答内容の確認に進む

【医療機関】回答者の基本情報について教えてください。※各項目について、ご記入ください。

医療機関名称

必須

役職

必須

例) 課長・課長補佐・師長・主任等

氏名

必須

郵便番号 必須	<input type="text" value="〒"/>
住所 必須	<input type="text"/>
電話番号 必須	<input type="text"/>
F A X 必須	<input type="text"/>
メールアドレス 必須	<input type="text"/>

～～～ピアサポート活動を行っている団体との連携について教えてください。～～～
具体的な連携内容は問2をご参照ください。

問1.過去3年以内の連携 について 必須	<p>貴所属が担当する地域で、過去3年以内に連携している（又はしたことがある）団体はありますか。 「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。</p> <p><input type="radio"/> はい</p> <p><input type="radio"/> いいえ</p> <p>【はい】とご回答の方→問2-1へ 【いいえ】とご回答の方→問4へ</p>
----------------------------	---

問2-1. 連携している団体 数	<p>問1で「はい」と回答した方に伺います。 連携している団体数を記入してください。</p> <p><input type="text" value="団体"/></p>
---------------------	---

問2-2-1.団体名（1団体 目）	<p>団体名を教えてください。</p> <p>1団体目 <input type="text"/></p>
----------------------	--

問2-2-1. 活動分野	<p>団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。 ※主なものを1つ選択ください。 当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。</p> <p><input type="radio"/> こころの病気全般</p> <p><input type="radio"/> 統合失調症</p> <p><input type="radio"/> うつ病・躁うつ病</p> <p><input type="radio"/> 認知症</p> <p><input type="radio"/> 児童・思春期のメンタルヘルス</p> <p><input type="radio"/> 発達障害</p> <p><input type="radio"/> アルコール依存症</p> <p><input type="radio"/> 薬物依存症</p> <p><input type="radio"/> ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）</p> <p><input type="radio"/> PTSD</p> <p><input type="radio"/> 高次脳機能障害</p> <p><input type="radio"/> 摂食障害</p> <p><input type="radio"/> てんかん</p> <p><input type="radio"/> ひきこもり</p>
--------------	--

自死遺族

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

広報への協力

社会資源等の情報提供

新規利用や見学の相談

講師・委員等派遣依頼

ミーティング・勉強会への参加

活動運営に係る相談対応

相談業務の委託

その他

問2-2-1.連携内容 (1)

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

活動等に関する情報提供

研修会や講演会等での講師対応

会議等での委員就任

相談員の派遣

その他

問2-2-1.連携内容 (2)

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-1.謝金の対応

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

研修会や講演会等での講師対応

会議等での委員就任

相談員の派遣

全て謝金なし

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.団体名（2団体目）

団体名を教えてください。

2団体目

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。

※主なものを1つ選択ください。

当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

問2-2-2. 活動分野

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症
- ギャンブル依存症（インターネットやゲーム依存も含む）
- PTSD
- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-2.連携内容（1）

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

問2-2-2.連携内容 (2)

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- 全て謝金なし
- その他

問2-2-2.謝金の対応

「その他」を選択した場合に入力してください。
「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.団体名 (3団体目)

団体名を教えてください。

3団体目

問2-2-3. 活動分野

団体の活動分野について、当てはまるものを選択ください。
※主なものを1つ選択ください。
当てはまるものがない場合は、その他を選択し、主な活動分野についてご記入ください。

- こころの病気全般
- 統合失調症
- うつ病・躁うつ病
- 認知症
- 児童・思春期のメンタルヘルス
- 発達障害
- アルコール依存症
- 薬物依存症
- ギャンブル依存症 (インターネットやゲーム依存も含む)
- PTSD

- 高次脳機能障害
- 摂食障害
- てんかん
- ひきこもり
- 自死遺族
- その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

貴所属から団体に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 広報への協力
- 社会資源等の情報提供
- 新規利用や見学の相談
- 講師・委員等派遣依頼
- ミーティング・勉強会への参加
- 活動運営に係る相談対応
- 相談業務の委託
- その他

問2-2-3.連携内容（1）

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

団体から貴所属に行っている連携内容について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 活動等に関する情報提供
- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣
- その他

問2-2-3.連携内容（2）

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

問2-2-3.謝金の対応

貴所属から団体への謝金の対応について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

- 研修会や講演会等での講師対応
- 会議等での委員就任
- 相談員の派遣

全て謝金なし

その他

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

上記以外に、当事者・家族「個人」と連携している内容がありましたらご記入ください。

問3.当事者・家族「個人」
との連携

問1で「いいえ」と回答した場合、連携に至らない理由について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

当事者・家族団体の情報の入手先がわからないため

業務多忙等により情報収集に取組めないため

連携するノウハウがない（当事者・家族団体活用の準備やフォロー体制）

連携する体制が整っていない（組織体制、予算、協働に係るルールづくり）

現時点では、連携する必要性を感じていない

その他

問4.連携に至らない理由

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

当事者・家族にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

悩みを共感し合うことで、不安や孤独感が軽減される。

他の当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。

病気や障害に関する理解を深めることができる。

困りごとの解決のために情報収集することができる。

社会とのつながりを持つことができる。

ピアサポートを提供する当事者の自尊心が向上し、リカバリーが促進される。

その他

問5-1. 連携によるプラス
の効果（当事者・家族にと
って）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

一般住民にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択してください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害に関する理解を深めることができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- その他

問5-2. 連携することによる
プラスの効果（一般住民
の視点）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

貴所属にとって、当事者・家族（団体・個人どちらも含む）と連携することによるプラスの効果について、当てはまるものを選択してください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※連携していないと回答された方は、プラスと考えられる効果について選択ください。

- 当事者・家族から体験を聞いたり実際に活動する姿をみて、病気や障害があってもその人らしい生活を送ること（リカバリー）のイメージを持つことができる。
- 病気や障害への理解が促進され、スティグマが軽減される。
- 当事者の地域での生活をイメージしやすくなる。
- 当事者・家族の視点に立って業務・事業運営ができる。
- スタッフ自身のスキル向上ややりがいにつながる。
- その他

問5-3. 連携することによる
プラスの効果（支援機関
の視点）

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

※（参考）スティグマ：差別や偏見

今後、ピアサポート活動の推進に関して行政へ期待として、当てはまるものを選択ください。当てはまるものがない場合は、その他を選択し、内容をご記入ください。複数回答可能

※行政の方については、今後求められていると感じていることについて選択願います。

- 当事者・家族団体同士の交流（活動共有）の場、ネットワークづくり
- 当事者・家族団体活動に関する情報提供
- ピアサポート活動についての運営費用等に関する補助制度の充実
- ピアサポート活動に関する研修会やコンサルテーション等の支援事業の実施
- 地域住民へのピアサポート活動に関する情報発信
- 地域住民へメンタルヘルスに関する情報発信
- その他

問6. 行政へ期待すること

必須

「その他」を選択した場合に入力してください。

「その他」を選択していない場合は、入力内容は破棄されます。

～～～ここからは、貴所属におけるピアサポーターの活動について、伺います。～～～

問7. ピアサポーターについて
必須

- ピアサポーターという用語を知っていましたか。該当する項目を選択ください。
※ピアサポーター：対価（雇用もしくは謝金等）を得てピアサポートの有効性を活かす実践をしている者。
- 知っていた
 聞いたことはあるがよくわからない
 知らなかった

問8. ピアサポーターとしての活動
必須

- 貴所属では、ピアサポーターとして活動されている当事者・家族の方はいますか。「はい」または「いいえ」のいずれかを選択ください。
- はい
 いいえ
- 【はい】とご回答の方→問9へ 【いいえ】とご回答の方→問11へ

問9. 活動人数

問8で「はい」と回答した方に伺います。
貴所属で、ピアサポーターとして活動されている方の人数を教えてください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

人

問10-1. 雇用状況

- 問9. で人数を回答された方に伺います。
貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の雇用状況について、該当する項目いずれかを選択ください。
- ピアサポーターとして雇用している（常勤）
 ピアサポーターとして雇用している（非常勤・パートタイム労働者）

問10-2. 雇用状況

問10-1. を回答された方に伺います。
貴所属でピアサポーターとして活動されている上記の方の人数をご記入ください。令和6年10月1日時点での人数をご記入ください。

常勤（ 人）、非常勤・パートタイム労働者（ 人）

問10-3. 連絡先

問10-2. で回答いただいた方について、今後改めて詳しくお話を伺わせていただく場合がございます。それについて、ご承知いただける場合は、下記にご連絡先をご記入ください。
※ご対応が可能な曜日・時間帯をご記入ください。
※ご連絡先が基本情報と異なる場合、追記ください。（担当者・電話番号・メールアドレス）

1 ご対応可能な曜日・時間帯、2 担当者名、3 電話番号、4 メールアドレス

～～～その他、今後の取り組みについて、ご意見等を教えてください。～～～

問11. ご意見・ご要望等

今後の、ピアサポート活動の推進に関して、ご意見・ご要望等がありましたらご記入ください。

以上で終了となります。
お忙しいところご協力いただき、誠にありがとうございました。

お問い合わせ

【宮城県精神保健福祉センター】

企画・地域支援班

〒989-6117 宮城県大崎市古川旭五丁目7-20

TEL : 0229-23-0021 FAX : 0229-23-0388

E-mail : seihosk@pref.miyagi.lg.jp

[回答内容を一時保存する](#)

[回答内容の確認に進む](#)

ご利用にあたり

[サイトマップ](#)

[↑
ページの
先頭へ](#)

Copyright © 2020 みやぎ電子申請サービス. All Rights Reserved.

【質的調査票(当事者・家族団体)】

当事者・家族団体の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査 （質的調査）について（案）～当事者・家族団体向け～

問1. ピアサポートを知った（ピアサポートに携わった、出会った）きっかけについて教えてください。

問2. 当事者・当事者家族として、地域で生活する中で大変だったこと・苦勞したこと、支えになったこと・励みになったこと、当事者・家族同士での支え合いで感じている効果について、教えてください。

（ピアサポーターとして活動されている場合は、ピアサポーターとしての活動の中で大変だったこと・苦勞したこと、よかったこと、感じている効果についても教えてください。）

問3. ピアサポート活動が地域で広がっていくために、今後必要と感ずることについて教えてください。

【質的調査票(市町村・事業所・精神科医療機関)】

当事者・家族団体の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査（質的調査）

回答者氏名 _____

- ① 連携することによるプラスの効果は様々あると考えている支援機関が多い中で、実際に当事者・家族団体との連携に至らない背景（※資料Ⅰ p28～31 参照）について、構成員の皆様が日ごろの活動の中で感じていることやご意見をご記入ください。

- ② 当事者・家族団体、支援機関ともに、行政に期待することとして「情報提供・情報発信」、「交流の場・ネットワークづくり」との回答が多くありました。（※資料Ⅰ p23 参照）。構成員の皆様が、行政に具体的に期待されることをご記入ください。

- ③ 構成員の皆様が、日ごろの活動や生活の中で、当事者・家族団体の活動状況について情報を得たい場合、どのように情報収集を行っているかについて、ご記入ください。（ホームページ、チラシやパンフレット、当事者や家族からの口コミ等）

- ④ 量的調査結果（速報値）全体を通して、感じたことやご感想など、自由にご記入ください。

以上で終了です。御協力ありがとうございました。

当事者・家族の活動（ピアサポート活動）に関する実態調査及び作業部会報告書

発行日 令和8年3月
編集責任者 小原 聡子
発行所 宮城県精神保健福祉センター
〒989-6117
宮城県大崎市古川旭五丁目7番20号
TEL 0229-23-0021
FAX 0229-23-0388
E-mail seihos@pref.miyagi.lg.jp

※この報告書は宮城県精神保健福祉センターホームページからダウンロードできます。

<<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/seihocnt/>>

QRコード

